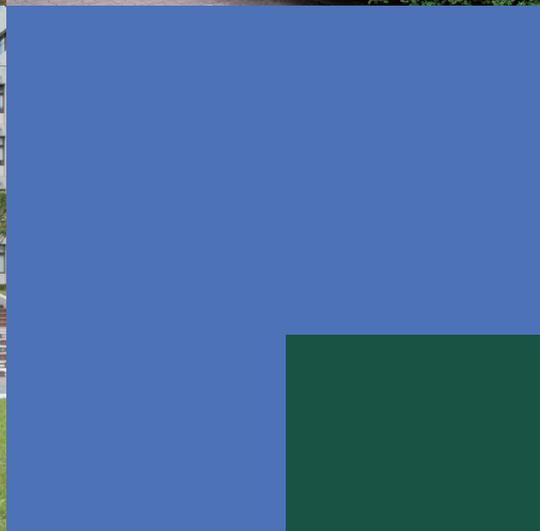




世界を視野に



地域から始めよう



平成25年度

宮崎大学概要



University of Miyazaki



世界を視野に 地域から始めよう

宮崎大学長

菅沼龍夫



UNIVERSITY OF MIYAZAKI



宮崎大学は平成15年10月に旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、教育文化学部、医学部、工学部ならびに農学部からなる新生宮崎大学として「世界を視野に地域から始めよう」のスローガンの下、新たな歩みを始め、この秋で統合10周年を迎えます。

宮崎大学はこれまでに、統合、法人化のメリットを活かした特色ある大学改革に積極的に取り組んできました。平成19年には農学と工学が融合した全国初の農学工学総合研究科博士後期課程を開設し、宮崎県の基幹産業である農林畜産水産業の振興はもとより、太陽光・太陽熱エネルギーシステムの教育研究拠点形成をはじめとする工業振興にも組織的に取り組んでいます。平成20年には教育現場での指導的教員を養成するために、教職大学院（教育学研究科教職実践開発専攻）を設置することができました。平成22年4月には医学および獣医学という極めて密接な学問的背景と宮崎県が日本でも有数の畜産県であるという特色も踏まえて、医学と獣医学が融合した、全国初で唯一の医学獣医学総合研究科博士課程を開設し、4年目を迎えています。平成22年4月に宮崎県で発生し、大きな被害をもたらした口蹄疫の教訓を踏まえ、平成23年10月に宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターを開設し、家畜感染症に対する国際的な防疫教育研究拠点形成をめざしています。さらに、本センターの基盤となる、全国的にも類を見ない大・中動物実験施設も本年度中に完成します。

医学部附属病院は宮崎県唯一の特定機能病院として宮崎県民の医療・福祉の向上に取り組んで参りましたが、平成18年度から始まった病院再整備事業も東病棟の改修により、昨年度末で完了することができました。国の地域医療再整備計画の一環として、平成22年に開設された地域医療学講座に続き、平成24年4月には待望の救命救急センターが開設され、ドクターヘリも導入され、関係各位の尽力により順調に稼働しています。名実共に最先端医療を担う、地域の中核医療拠点としての役割を果たします。

宮崎大学は生命科学、環境科学、エネルギー科学の分野において、国際的に通用する、特色ある高度な学術研究を世界へ発信しています。地球規模で自らの将来を俯瞰できる人材を育成し、地域の知の拠点として燦し銀のように輝き続ける大学をめざして、不断の改革を進めています。

平成25年度

宮崎大学概要

C O N T E N T S

学長挨拶	1
目次	2
大学の理念・目的	3
シンボルマークについて	3
宮崎大学オリジナルキャラクター	3
大学のスローガン	3
宮崎大学の歌	3
年間スケジュール	4
沿革	4
教育の特色	5
研究の特色	7

学部紹介

教育文化学部	9
医学部	10
工学部	11
農学部	12

大学院紹介

教育学研究科	13
医科学看護学研究科	13
工学研究科	14
農学研究科	14
医学獣医学総合研究科	15
農学工学総合研究科	15

附属図書館	16
学内共同教育研究施設	17
安全衛生保健センター	18
情報統括機構	18
地域貢献	19
国際交流	21
アクセス	22
キャンパスマップ	23
資料編	25

本学の理念・目的

人類の英知の結晶としての学術・文化・技術に関する知的遺産の継承と発展、深奥な学理の探究を目指す。また、変動する時代及び社会の多様な要請に応え得る人材の育成を使命とする。更に、地域社会の学術・文化の発展と住民の福利に貢献する。特に、人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育ててきた地球環境の保全のための科学を志向する。

シンボルマークについて



宮崎大学の頭文字「宮」をモチーフとして図案化し、さらにそれを擬人化したシンボルマークです。白い丸は、だんだん拡大される宮崎大学のイメージをあらわし、緑色の中の二つの丸は、統合した宮崎大学と宮崎医科大学を象徴するものとしてデザインしました。

さらに、図形は、躍動する若人の姿と全体の円を地球としてとらえたグローバルにはばたく姿も表現しています。

また、緑（グリーン）と青（ブルー）の2色は、自然豊かな宮崎の木々の緑と澄んだ空と海の青をイメージし、宮崎という地域にある本学のスクールカラーにふさわしい色として採用しました。

宮崎大学オリジナルキャラクター



平成23年5月、学内公募により誕生した、宮崎大学オリジナルキャラクター「みやだいまうくん」です。本学の英語表記である「University of Miyazaki」の頭文字「UoM」を逆から読んで「Mou（もう）」、この音が牛の鳴き声に似ていることが名前の由来です。宮崎大学を広くアピールするため、いろいろな場面で活躍しています。

大学のスローガン

「世界を視野に 地域から始めよう」

宮崎大学の歌

作詞：熊瀬川逸子 作曲：斉藤武 補作：菅邦男

一 空高く 神々の里 ^{ひむか}ここ日向
青島望むこの台地 ^{まなびや}緑茂れる 学舎で
先人の輝く ^{わだち}轍 踏みしめて
未来に架ける若人の ^{みちしるべ}夢と希望の道標
宮崎大学

二 ^{ひゅうがなだ}日向灘 ^{はま}浜木綿の顔色 暖かく
^{きら}煌めく白い波のごと ^{こはな}心優しく清らかに
^{はな}木花の風土 ^{はくく}が育む命愛し
真理を求め学びゆく ^{みちしるべ}夢と希望の道標
宮崎大学

三 ^{やまなみ}山脈の美し姿 ^{おびすぎ} 飴肥杉の
^{てんくう}天空さして在ることく ^{みちしるべ}理想を高く意志強く
時を翔け自由を旅する ^{みちしるべ}鳥のように
世界に広く羽ばたける ^{みちしるべ}夢と希望の道標
宮崎大学

宮崎大学の歌

作詞：熊瀬川 逸子
作曲：斉藤 武
補作：菅 邦男

mp

1. そひ らう たが かな くだ かは みま がの みのお さいが
2. ひゆ りう たが なみ のの のく かつ のかし
3. やま りう たが なみ のの のく かつ のかし

4. とろた こあお こたび ひたす むかき かくの あきて おらん しめく まくう のしき ぞろし おいて

8. こな のみ れのち どこそ りろう しやを れしか るくく まさい なよし ーびー やー ーかー
のあ れのち どこそ りろう しやを れしか るくく まさい なよし ーびー やー ーかー

12. でにく せんこのとき じんばなをか ののけ かふじ がうどう くがを たはた わくす ちむる ふいのとり みちの しあよ めいう

16. てしに ーみし ーらんか ーいりい にをに かもち れとろく わまは こなばた ーうどゆけ } ゆめと きぼう

20. の みちしる ーべ *ff* みやざき だいがく

年間スケジュール ※変更となる場合もあります。

4月 学年学期始・前学期開始 入学式	11月 大学祭
8月 夏季休業（9月末まで）	12月 冬季休業
9月 前学期終了	3月 卒業式・修了式 春季休業
10月 後学期開始	後学期終了

沿革

宮崎県尋常師範学校
明治17年11月17日設立
明治18年2月28日開校

宮崎県師範学校
明治31年4月1日改称

宮崎県女子師範学校
大正15年4月1日分離独立

宮崎師範学校(官立)
昭和18年4月1日統合改称

宮崎県実業補習学校教員養成所
大正11年3月10日設立
大正11年4月20日開校

宮崎県青年学校教員養成所
昭和10年4月1日改称

宮崎青年師範学校(官立)
昭和19年4月1日改称

宮崎高等農林学校
大正13年9月25日設立
大正14年4月9日開校

宮崎農林専門学校
昭和19年4月1日改称

教育文化学部

工学部

農学部

宮崎大学
昭和24年5月31日設置

国立医科大学(宮崎県)創設準備室
昭和48年10月1日設置

宮崎医科大学
昭和49年6月7日設置

宮崎大学
平成15年10月1日統合

国立大学法人宮崎大学
(平成16年4月1日設置)

教育文化学部

学校教育課程
人間社会課程
附属教育実践総合センター
附属小学校
附属中学校

医学部

看護学科
附属病院

工学部

環境応用化学科
社会環境システム工学科
環境口ホテイクス学科
機械設計システム工学科
電子物理工学科
電気システム工学科
情報システム工学科

農学部

植物生産環境科学科
森林緑地環境科学科
応用生物科学科
海洋生物環境科学科
畜産草地科学科
獣医学科
附属動物病院
附属フィールド科学教育研究センター
附属農業博物館

大学院

教育学研究科(修士・専門職学位)
医科学看護学研究科(修士)
工学研究科(修士)
農学研究科(修士)
医学獣医学総合研究科(博士)
農学工学総合研究科(博士後期)

別科

畜産別科

附属図書館

学内共同教育研究施設

産学・地域連携センター
教育・学生支援センター
フロンティア科学実験総合センター
国際連携センター
産業動物防疫リサーチセンター
安全衛生保健センター

情報統括機構

情報基盤センター

宮崎大学の特色



宮崎大学は、人類の生活にとって欠かすことのできない生命、環境、エネルギーを凝視^{みつ}めて大学創りに取り組み、高度な学術研究成果を地域社会、そして広く世界に向けて発信しています。本学では、総合的な教養教育（共通教育）と実践力の基盤となる専門基礎教育を中心とする学部教育を基本とし、大学院教育では、社会の指導的役割を果たすべくより高度な専門性の向上を目指しています。

グローバルに変動する社会、そして時には驚異を伴った自然環境の変遷の中で、自ら考え、行動できる人を育てるために、共通教育は重要な役割を果たしています。共通教育では、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンのもと、世界に羽ばたくために欠かせない外国語によるコミュニケーション能力の向上に向けて学士課程一環の学習プログラムを構築しています。また、進化し続ける情報処理能力など新時代に不可欠な知力・技能の修得に向けてパソコン必携の教育を行っています。さらに、地域に根ざし、人生設計に関わるライフデザイン、キャリアデザインを学び、かつ、幅広い人間関係の構築そして豊かな学生生活を送り社会に巣立つための底辺を支える骨格形成に取り組んでいます。これらに携わる全学の教員は、教育者として職務の専門性

及び特殊性を自覚して、学生の自律を促し、その人格、個性を尊重し、学問を追究する姿勢や生き方を語るなど、学生の学ぶ意欲や目的意識を刺激すべく、絶えず教育内容や方法の改善に努めています。

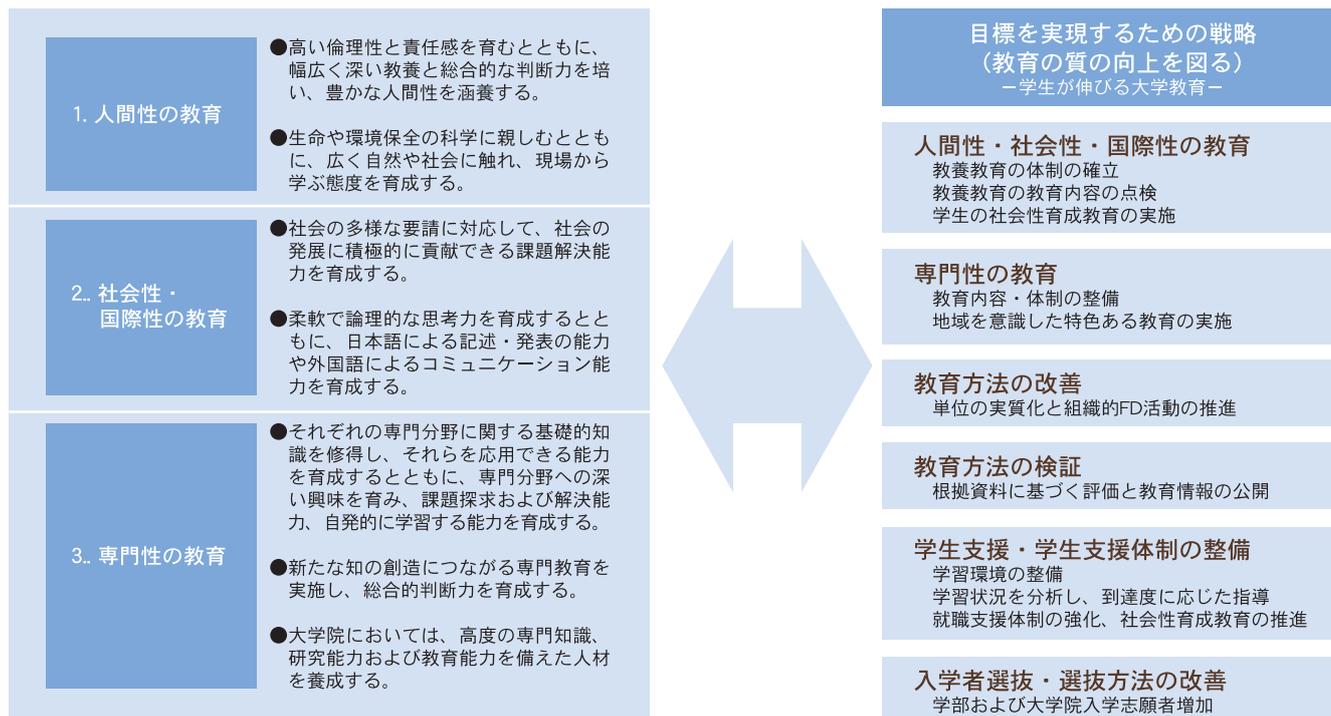
専門教育は、共通教育と並行して学年進行に伴って基礎知識の導入に始まり応用へと発展していきます。専門教育の特色は、豊かな地域的特性を活用した実践型専門技術者養成プログラムとの連携にあります。すなわち、広く社会に課題を探求し、自ら解決していく実践的な知力・技能を修得し、変動する社会の多様な要請に応えています。いくつか挙げると、国挙げての課題である地域医療支援を重視した臨床医教育、国際的教育効果の保証（JABEE）による認証を受けた専門技術者教育、畜産基地としてわが国の重要拠点の一つを成す人獣共通感染症教育、今まさに注目されている太陽光・太陽熱発電や環境負荷低減のための専門技術開発など、学部間や他機関との協力により取り組んでいます。

本学の教育の大きな特色が、大学院教育にあります。修士課程では、研究科毎に特徴ある高度な専門職業人の養成を目指す教育プログラムを備えています。また、博士課程では、農学と工学が融合した農学工学総合研究科を、医学と獣医学を融

合した医学獣医学総合研究科を、それぞれ全国に先駆けて創設しました。このように、縦割りの学問分野による知識伝達型の教育や単なる専門教育ではなく、他大学やこれまで領域を異にしていた分野を融合させて相互の質を向上させ、かつ、従来手の届きにくかった融合領域にも新たな研究者や技術者を輩出しています。また、教職大学院(教職実践開発専攻)を開設し、高度な実践力・応用力を備えた新人教員の養成や高度な教育理論に支えられたスクールリーダーの養成を行っています。

一方、課外活動などを通じて協調性や指導力などの資質を磨くこと、各種メディアや情報を用いた解析力や理解力を身に付けること、国内外の体験から社会との関わりについて考えを深めることも重要な課題です。本学では、学生自身が企画、運営し大学や地域社会を活性化していく素養を身に付けることを目的として、「とっても元気！宮大チャレンジ・プログラム」事業を継続しており、これまでに様々な成果を産み出しています。このように、大学教育が、「学ぶ自由を与えられる」ものとしてではなく、「自由に学ぶ」という理念に支えられるよう教職員一同「学びやすい環境」創りに取り組んでいます。

■宮崎大学の教育目標



(注)「人間性」、「社会性・国際性」の教育は、教養教育に限らず教育課程全般に適用されるものである。

教育体系の基本的考え方

- 学士課程**
- 教養教育と専門教育により編成
 - 宮崎大学の教育が目指す教育目標に応じた教育課程を編成し質の向上を図る。
 - 専門教育においては教養教育と連携を保ち、学部等の専攻に係る専門の学芸を修得し、専門的職業人としての基本的技能・態度を育成する。
- 大学院課程**
- 教育目標に応じた教育課程を編成し、高度専門職業人等を育成するため、高度な専門教育を行う。

■宮崎大学の教育プロジェクト (平成25年度現在)

研究課題名等	研究種目等	期 間	学部等
国立大学法人等の教育研究基盤の確保			
生物遺伝資源教育プログラムの国際的展開	文部科学省特別経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	H22~H26	農学部, FSRC
International GAP(国際的適正農業規範)対応の食料管理専門職業人の養成	文部科学省特別経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	H23~H26	農学部
高度な技術と指導性を有する家畜衛生・家畜臨床獣医師育成事業	文部科学省特別経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	H23~H25	医学獣医学総合研究科 農学部, FSRC
小中一貫教育プログラムの開発と実践 —小中一貫教育に関する総合的研究とそれを基盤とする 新入教員養成及び現職教員研修—	文部科学省特別経費(地域貢献機能の充実)	H23~H25	教育文化学部 教育学研究科
地域社会との協働による教員養成の機能強化に向けた改革	文部科学省特別経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)	H25	教育文化学部 教育学研究科
国公立大学を通じた大学教育改革の支援 ※1			
地域の医療現場と協働したサービス・イノベーション人材の育成	大学間連携共同教育推進事業	H24~H28	医学部
高度医療人材養成機能の充実	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	H24~H28	医学部
文部科学省以外の事業			
地域医療学講座	寄附講座[宮崎県]	H22~H25	医学部
J A B E E (ジャビー) ※2			
工学部 土木環境工学科	土木及び土木関連分野	H15~	工学部
工学部 物質環境化学科	化学および化学関連分野(応用化学コース)	H16~	工学部
工学部 電気電子工学科	電気・電子・情報通信およびその関連分野	H16~	工学部
工学部 機械システム工学科	機械および機械関連分野	H17~	工学部
工学部 情報システム工学科	情報および情報関連分野	H17~	工学部
農学部 応用生物科学科	農学一般関連分野	H21~	農学部
工学部 材料物理工学科	物理・応用物理学関連分野	H22~	工学部

※1：大学における学生教育の質の向上を目指す特色ある優れた取組をサポートする文部科学省のプログラム。 ※2：日本技術者教育認定機構。これに認定された教育プログラムは、教育活動の品質が国際的レベルにあることや、技術者として活動するために必要な最低限の知識や能力の養成に成功していると評価されたこととなります。
※FSRC…フロンティア科学実験総合センター

宮崎大学の特色の

宮崎大学では、永年に渡って蓄積された人的・物的資源を活用し、大学をはじめとする国内・海外を通じた多くの教育・研究機関等と共同研究の展開及び研究者ネットワークの構築、並びに学術資料等の共有・共同利用の推進等、研究体制や研究基盤を強化するために、医学、農学、工学及び教育文化学の各分野をはじめとする特色ある分野における共同研究拠点を志向することにより、異分野の英知を結集した共同研究・共同利用を推進し、相互の研究分野の水準の向上と異分野融合による新たな学問領域の創出を図りながら、「世界を視野に 地域から始めよう」をスローガンとして広く地域社会に貢献しています。

すなわち、平成19年度、農学工学総合研究科（博士後期課程）、平成22年度、医学獣医学総合研究科が、それぞれ我が国では初めて設置され、全学共同利用施設の前線科学実験総合センターや産業動物防疫リサーチセンター等と融合して先端的な研究を推進し、医工連携による総合研究を含め、多くの研究プロジェクトを走らせています。

具体的には、8ページに示すように、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、日本学術振興会並びにそれらの関連法人からの支援を得て実施されている、生理活性物質の探索に関わる先端的な研究、人類の健康を保障していくための臨床開発研究、

今日、地球上の脅威となっている人獣共通感染症に関する研究、自然界の有用生物遺伝資源の収集・保存・提供・開発の国際拠点整備、バイオマス資源／資源再利用に関する研究及び太陽光・太陽熱等の自然エネルギー利用等の大型研究プロジェクトが挙げられます。これらの研究をはじめ各部署等においては、地方自治体、関連分野の企業や団体等との連携研究の数多くが、産学・地域連携センターのコーディネートにより推進され、かつ、研究成果が本センターを通して広く地域に還元されています。

また、本学は、平成21年度から「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業（文部科学省旧科学技術振興調整費）に採択され、若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進し、世界的な研究拠点を目指していくため、テニュアトラック制（若手研究者が、任期付き雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る制度）に基づき、国際公募によって採用した10名の若手研究者に、競争的環境下で自立した活躍の機会を与える制度を導入しています。本事業の中間評価においては、全国トップクラスの“S”評価を受けています。さらに、平成23年度からの「テニュアトラック普及・定着事業」（文部科学省科学技術人材育成費補助金）に機関選抜型として採択され、国際公募による4

名の教員が採用され、内2名は、個人選抜型に採択されています。平成25年度以降は、本事業を全学に展開することとしています。

一方、「女性研究者支援モデル育成」事業（平成20～22年度／文部科学省旧科学技術振興調整費）を継続・発展させ、学生、教職員の男女共同参画推進に対する意識改革に積極的に取り組んでいます。また、九州・沖縄地域の大学が参加する九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク（Q-wea）を構築する牽引力として大きく貢献しています。本事業に関連する男女共同参画基本計画（平成25年4月）に基づき、育児や介護中の研究者を対象とした「Athenaリサーチアシスタント制度」や「女性研究者奨励賞授与」等を通じて、本学研究者の支援に取り組んでいます。さらに、次世代の育成を目指し、性別にとらわれず、個性と能力を生かすことのできる進路選択を支援する取り組みを行っています。

研究の国際性の点では、日本学術振興会等の協力を得て、国際連携センターが支援活動の中心的な役割を果たしています。また、現在、46ページに示すように25件の大学間交流協定と26件の部局間交流協定を締結し、研究者・学生の交流をはじめ共同研究を推進しており、インドネシア・マラン市に研究拠点となる宮崎大学インドネシアオフィスを設置し共同研究等を推進しています。

■宮崎大学の研究戦略

1. 研究戦略の目標

宮崎大学は、「世界を視野に 地域から始めよう」というスローガンのもと、変動する時代並びに多様な社会の要請に応え、人間性・社会性・国際性を備えた専門職業人を養成し、有為の人材を社会に送り出すとともに、国際的に通用する研究活動を積極的にを行い、その成果を大学の教育に反映するとともに、地域をはじめ広く社会の発展に貢献する。

さらに人類の福祉と繁栄に資する学際的な生命科学を創造するとともに、生命を育んできた地球環境の保全のための科学を志向し、諸学の連携・融合による特色ある研究を通して、国際的に通用する研究活動を積極的にを行い、地域から世界に発信できる高度な学術研究を推進する。

〈重点領域〉

宮崎大学では、次の3領域を重点領域とし全学的に研究を推進する。

- ◎生命科学
- ◎環境科学
- ◎エネルギー科学

2. 目標を達成するための研究戦略

〈重点領域〉

- ◎生命科学
- ◎環境科学
- ◎エネルギー科学

〈推進方策〉

- ①学部の垣根を越えて設置された大学院などの研究組織を基盤とし、研究戦略に位置付ける重点領域の特色ある研究を全学的に推進する。
- ②基礎・基盤研究、萌芽的研究を推進する。
- ③若手研究者・女性研究者を育成し、その研究を支援する。
- ④各学部等における特色ある研究を一層推進する。
- ⑤共同利用施設・設備等の充実などにより、研究環境の整備を推進する。
- ⑥研究成果を地域・国内・世界へ積極的に発信する。

3. 本学研究的特色

宮崎大学は、「生命科学に特色を持つ大学の創造」、「生命を育んできた地球環境の保全」の理念のもと、「世界を視野に地域から始めよう」のスローガンを掲げ、戦略的に研究を推進・展開している。本学では各学部等の基盤的研究組織において、基礎・基盤研究、萌芽的研究の推進を継続的に図りながら、「生命科学」、「環境科学」及び「エネルギー科学」を重点研究領域に位置付け研究を推進している。また、新たに創設した大学院研究科(博士課程)である農学工学総合研究科及び医学獣医学総合研究科などにより研究基盤の一層の強化を図り、学部・研究科の垣根を越えた研究を推進し、異分野融合による研究成果を創出するとともに、各学部等の特色ある研究を推進している。さらに若手・女性研究者の育成や研究を推進している。これらの取り組みを通して、国際競争力を高め新たなイノベーションを創出し、より一層研究の高度化を図ることを目指している。

■宮崎大学の大型研究プロジェクト (平成25年度現在)

研究課題名等	研究種目	研究期間	学部等
若手研究者支援			
テニユアトラック普及・定着事業	平成23年度科学技術人材育成費補助事業「テニユアトラック普及・定着事業」	H23~H27	全学
宮崎大学型若手研究リーダー育成モデル	文部科学省科学技術人材育成費補助金(若手研究者の自立的研究環境整備促進)	H21~H25	全学
超分子性ペプチド複合体の自発的生成による生理活性物質の水溶化とバイオアベラビリティの強化	先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究支援プログラム)	H22~H25	工学部
複合微生物系構築ならびに微生物間相互作用に基づいた担子菌機能の最大化	文部科学省科学研究費補助金(若手研究(A))	H23~H26	農学部
生理活性物質の探索			
肥満におけるエネルギー代謝調節ペプチドの病態生理学的意義の解析	文部科学省科学研究費補助金(新学術領域研究(研究領域提案型))	H22~H26	医学部
臨床開発研究			
高次脳神経機能におけるシナプス可塑性の神経細胞外微小環境による制御機構の解明	文部科学省科学研究費補助金(新学術領域研究(研究領域提案型))	H23~H27	医学部
宮崎県全体をフィールドとする、がんコホート研究	文部科学省特別経費(大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実)	H23~H27	医学部
A T L対策宮崎モデルの確立に向けて	文部科学省特別経費(大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実)	H24~H28	医学部
宮崎県独自の周産期医療ネットワークを基盤とする多面的研究体制の構築と発達期脳障害の病態解明の推進	文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実)	H21~H25	医学部, FSRC
癌医療におけるグレリンの包括的QOL改善療法の開発研究	厚生労働省科学研究費補助金	H22~H25	医学部
人獣共通感染症			
医学獣医学融合による統合動物実験研究プロジェクト —動物実験の有効活用を核とした基礎・橋渡し・臨床研究のスパイラル展開によるヒト・動物疾患に対する予防・診断・治療法の開発と人材育成—	文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実)	H22~H26	医学獣医学総合研究科, 医学部, 農学部, FSRC
生物遺伝資源			
ミヤコグサ・ダイズリソスの国際的拠点整備—収集・保存・提供—	研究開発施設共用等促進費補助金	H24~H28	農学部
バイオマス/資源再利用			
高機能触媒反応によるバイオマス資源のバイオ燃料及びバイオ有価物への変換プロセスの開発	文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実)	H21~H25	農学工学総合研究科
完全非真空プロセスによる低コスト高効率薄膜化合物半導体太陽電池の開発	文部科学省特別経費(大学の特性を活かした多様な学術研究機能の充実)	H23~H26	工学部
国際連携			
チベット—トランスヒマラヤ高山草原における生態系保全型放牧システムに関する研究	文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(A))	H23~H25	農学部

※FSRC・・・フロンティア科学実験総合センター



教育文化学部

【課程・コース】

- **学校教育課程**
 - 初等教育コース
 - 中学校教育コース
 - 特別支援教育コース
- **人間社会課程**
 - 言語文化コース
 - 社会システムコース

【附属施設】

- **附属教育
実践総合センター**
- **附属学校園**
 - 附属幼稚園
 - 附属小学校
 - 附属中学校

教育文化学部には、教員養成を主たる目的とする「学校教育課程」と、人文及び社会科学の広く豊かな資質を備えた職業人を養成する「人間社会課程」があります。

学校教育課程では、「初等教育」、「中学校教育」、「特別支援教育」の各コースごとにカリキュラムが組み立てられ、学校現場に関わる諸問題や児童・生徒の心身の諸問題について専門的に学びます。また、それと共に介護体験実習、教育実習といった、教員に必要とされる教職科目も学習します。

人間社会課程では、「欧米思想」、「国際関係

論」、「実践的地域マネジメント論」の3科目の課程共通必修科目が配置され、さらに「言語文化」と「社会システム」の2つのコース別カリキュラムが組み立てられています。前者では言語と文化の人文系、後者では社会科学系の科目を専門的に学びます。

また、本学部には教育実践総合センター及び幼小中の附属学校園といった施設があり、学習カリキュラムの開発、ICT活用による新たな学習・教育環境の構築、現職教員の専門的力量的養成、幼児・初等中等教育の実践及び学生の教育実習や教員間の共同研究が行われています。





医学部

【学科】

- 医学科
- 看護学科

医学部は、昭和49年に設立された宮崎医科大学を前身とし、平成15年10月に宮崎大学との統合により、宮崎大学医学部となりました。医学部は、「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学研究者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。

医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師の育成を目指しています。本学科の卒業生は、臨床医師、医学研究者、あるいは医学教育者として幅広い分野で活躍し、医学の発展と社会福祉の向上に貢献しています。看護学科は、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目指しています。本学科の卒業生は、豊かな人間性を有した看護師、保健師、または助産師として、人々の健康と生活への援助を実践し、看護の質の向上と看護学の発展並びに社会の福祉に貢献しています。

【附属施設】

- 附属病院

医学部附属病院は、昭和52年10月に開設され、総病床数632床を有する宮崎県における中核的医療機関です。診療のみではなく、在学生の臨床教育の場でもあり、卒後2年間の研修医としての初期臨床研修、それに続くレジデント・医員としての診療や研究並びに開業医や勤務医の生涯学習のための研修の場でもあります。当院は、平成6年10月に特定機能病院の指定、平成25年1月に日本医療機能評価機構による「病院機能評価ver.6.0」を受審、同年4月に認定を受けております。また、平成18年11月からは、附属病院再整備に着手し、平成22年5月から新外来診療棟での診療を開始しております。この附属病院再整備も平成25年3月末に完了しました。さらに、平成24年4月1日に救命救急センターが設置され、同年4月18日にはドクターヘリの運航も開始しております。また、平成25年3月1日からはヘリポートを備えた救命救急センター棟でのドクターヘリの運航を行っています。



【本院の理念】

診療、教育、研究を通して社会に貢献します。

【基本方針】

1. 患者さん中心の良質な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療連携の推進
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備



工学部

【学科】

- 環境応用化学科
- 社会環境システム工学科
- 環境ロボティクス学科
- 機械設計システム工学科
- 電子物理工学科
- 電気システム工学科
- 情報システム工学科

【学部内センター】

- 工学基礎教育センター
- 環境・エネルギー工学研究センター
- 工学部国際教育センター

工学部は、宮崎県唯一の工学系学部として、“宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部”を目標に、今後ますます進展する高度な科学技術に挑戦し、創造することができる人材の育成につとめ、国際的にも評価される質の高い学術研究活動を進めています。さらに、地域産業の発展を推進することにより、地域社会に知的な貢献をすることにつとめています。本学部では、2012年度の大幅な改組改編により、環境ロボティクス学科と工学基礎教育センター、環境・エネルギー工学研究センター、

国際教育センターの新設や学科構成の見直しなどを行いました。【環境応用化学科】【社会環境システム工学科】【環境ロボティクス学科】【機械設計システム工学科】【電子物理工学科】【電気システム工学科】【情報システム工学科】の7学科の連携協力による教育・研究分野の高度化、学際化、総合化を推し進め、21世紀の地球環境と共生できる科学技術の創造と、それを担う人間性豊かな人材の育成を目指しています。





農学部

【学科】

- 植物生産環境科学科
- 森林緑地環境科学科
- 応用生物科学科
- 海洋生物環境学科
- 畜産草地科学科
- 獣医学科

【附属施設】

- 附属フィールド科学教育研究センター
- 附属動物病院
- 附属農業博物館
- 産業動物教育研究センター

【別科】

- 畜産別科

— 日本・世界の食料・環境問題の克服を目指して —

宮崎大学農学部は、宮崎県の農業、日本の農業そして世界の農業を通して、食料問題や環境問題を克服することを使命とし、「食料・環境・生命」をキーワードとして、国内外の農学専門分野で活躍できる人材の育成を行ってきました。しかし、日本の農業、あるいは大学の農学教育が担う役割は急激に変化しており、地球温暖化などの新たな

環境問題、食の安全確保、持続的な農産物の生産、人と動物の共通感染症克服など、様々な問題に対応する必要があります。本学部は、平成22年4月から分りやすい名称を用いた新しい学科編成の下で教育と研究を推進し、社会の多様な要請に応え得る人材の育成に努め、より一層の社会貢献を目指しています。





教育学研究科

<修士課程><専門職学位課程>

【専攻】

■ 学校教育支援専攻 (修士課程)

教育臨床心理専修
日本語支援教育専修

■ 教職実践開発専攻

(教職大学院: 専門職学位課程)

学校・学級経営コース
生徒指導・教育相談コース
教育課程・学習開発コース
教科領域教育実践開発コース

教育学研究科では、高度な指導力を養い、幅広い教育現場で活躍できる指導者の育成のため、2つの専攻を用意しています。

学校教育支援専攻では、教育心理学や特別支援教育、臨床心理学に関する専門的知識や実践力を備えた教員等を養成する「教育臨床心理専修」、5分野(言語教育・言語文化・言語心理・国際文化・文化共生)の学びで幅広い知識・能力を備えた日本語教育専門家を養成する「日本語支援教育専修」の2専修を展開し、臨床実践力を身につけます。

教職実践開発専攻では、優れた学級経営能力を備えた教員を養成する「学校・学級経営コース」、生徒指導や教育相談のノウハウを学ぶ「生徒指導・教育相談コース」、カリキュラム開発・編成に携わる能力を養う「教育課程・学習開発コース」、確かな教科指導能力を備えた人材を育成する「教科領域教育実践開発コース」の4コースを展開し、教職現場を担うための高度な実践力・応用力を備えた教員を養成します。



医科学看護学研究科

<修士課程>

【専攻】

■ 医科学専攻

■ 看護学専攻

平成22年4月、医学獣医学総合研究科の設置に伴い、医学系研究科修士課程は、医科学看護学研究科に名称変更しました。本研究科は「人間の複雑多彩な生命現象を形態学的、生理学的並びに生化学的に研究し、自然環境、社会環境をも研究対象として社会に貢献できる高い研究能力を持つ研究者を育成すること」を使命としています。社会のニーズに対応するために、夜間履修制度、長期履修制度、ティーチング・アシスタント制度等を取り入れた教育・研究を行っています。

平成21年度には、修士課程看護学専攻に専門看護コース(がん看護)を設け、専門看護師(CNS)を養成しています。



工学研究科

<修士課程>

【専攻】

- 応用物理学専攻
- 物質環境化学専攻
- 電気電子工学専攻
- 土木環境工学専攻
- 機械システム工学専攻
- 情報システム工学専攻

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる知識基盤社会の時代と言われています。この知識基盤社会においては、個人の人格形成の上でも、社会の発展・振興の上でも、大学院は極めて重要な役割を果たしています。工学研究科修士課程は、専門分野に関する学識のみならず、幅広い知識や社会人としての素養の涵養を図るとともに、研究能力や高度な専門的職業を担うための能力を培うことを目的としています。この目的を達成するため、所属専攻だけでなく他専攻あるいは他研究科の講義も受講できる履修モデルを提供するとともに、技術経営、知的財産、技術者倫理などの講義を共通科目として提供しています。



農学研究科

<修士課程>

【専攻】

- 生物生産科学専攻
- 地域資源管理科学専攻
- 森林草地環境科学専攻
- 水産科学専攻
- 応用生物科学専攻

農学研究科では、専門性の高い農業分野の5専攻を備え、高度で先端的な科学技術を修得できる大学院教育を行います。すなわち陸域・水域を問わず生物生産、生物資源利用、環境保全などに積極的に取り組み、将来の食と健康を担うべき農学分野での高度専門技術者あるいは研究者の養成を目指しています。

また、農林水畜産業の生物生産から生物資源の利活用までの探求を通して、地域社会から国際社会まで幅広く活躍できる人材を育成します。

さらに、生物多様性の保全とその持続的利用に対する社会的関心が高まる中、様々な遺伝資源の研究や応用に必要な専門技術に関する教育を行っています。

なお、本研究科は平成26年度から、学部教育の専門性を深化させ、グローバル化に対応した新たな研究科へとステップアップします。



医学獣医学総合研究科

<博士課程>

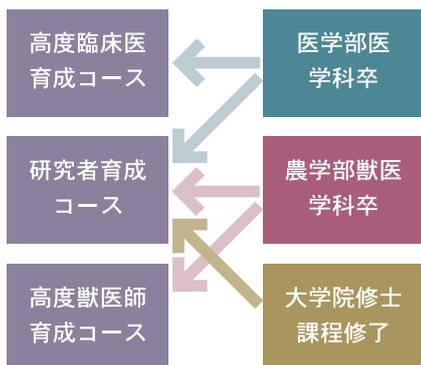
【専攻】

■ 医学獣医学専攻

- 高度臨床医育成コース
- 高度獣医師育成コース
- 研究者育成コース

平成22年4月、教育研究の更なる充実と深化を深めるために、医学系研究科博士課程を改組し、医学獣医学総合研究科医学獣医学専攻3コース（①高度臨床医育成コース、②高度獣医師育成コース、③研究者育成コース）が設置されました。

本研究科は、高度専門職業人としての医師、獣医師及び研究者・教育者の養成を主眼とし、医学・獣医学の分野において自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とし、医学・獣医学の発展と社会の福祉の向上に寄与することを使命としています。



ハナショウブの新品種(青島)／農学工学総合研究科、藪谷教授が育成

農学工学総合研究科

<博士後期課程>

【専攻】

■ 資源環境科学専攻

- 環境共生科学教育コース
- 持続生産科学教育コース

■ 物質・情報工学専攻

- 新材料エネルギー工学教育コース
- 生産工学教育コース
- 数理情報工学教育コース

■ 生物機能応用科学専攻

- 生命機能科学教育コース
- 水域生物科学教育コース

農学工学総合研究科は、農学と工学の学問的背景と連携協力の実績を踏まえて、それらが連携・融合した教育研究領域の深化を図ることにより、広範な知識に基づいた総合的判断力と高度な研究能力を備え、技術・知識基盤社会の形成に資する高度専門技術者の養成を目指します。このため、研究科では上記の三専攻を設け、①低環境負荷・持続型生産システムの構築と持続型地域社会が必要とする社会基盤の保全、②生物及び微生物の機能を活かした新規機能性食品の開発と地域バイオマス資源の有用物質への変換、そして③ナノテクノロジーを応用した機能性材料の創生と自然共生型エネルギーの活用とその変換技術、省エネルギー化・高度情報化された生産技術の開発と高度なソフトウェアを活用した情報処理システムの構築に関わる教育研究を通じて21世紀の喫緊の課題を解決し社会に貢献します。



附属図書館

<http://www.lib.miyazaki-u.ac.jp/>

附属図書館（以下、「図書館」という）は、本館（木花キャンパス）と医学分館（清武キャンパス）から構成されており、宮崎大学における教育・研究を支援するとともに、地域に貢献する組織として活動しています。

図書館の役割は、学術情報の収集・蓄積・提供、学習環境の整備などです。このため、図書館では長年にわたって、蔵書（蔵書数：約63万冊）を蓄積するとともに、近年はインターネットを介しての情報提供体制を整え、図書館資料（図書や雑誌など）が有効に活用される環境（ハード及びソフトの面）を整えています。

このため、図書館では、学生用図書の充実、電子ジャーナル（学内限定でオンラインで利用できる学術雑誌）の整備、宮崎大学学術情報リポジトリ（学内生産の電子的研究成果物の収集・保存・発信）の拡充等に努めています。また図書館を有効に活用していただくため、ホームページの充実や文献検索講習会の開催などを実施しています。

現在、大学は社会との連携が強く求められており、そのため図書館では、地域の方へ図書館を利用していただくことを始め、県内の大学図書館、公共図書館との連携の強化を図るよう取り組んでいます。

【コレクション】

■大正新脩大藏經 全100巻

このコレクションは、膨大な数のインド仏典の漢訳を10年以上の歳月をかけて全100巻に編集したものです。梵語写本の多くが失われている現在、仏教研究者にとって漢訳仏典は非常に重要であり、特にこの大藏經はその校正の厳密さゆえに高く評価されています。



■イギリス教育史コレクション 467点

このコレクションは、16世紀イギリスの人文主義教育思想家アスカムから20世紀に至るイギリスの教育思想(史)、教育史に関するオリジナル文献・研究書を幅広く収めています。



■アレン・ハット旧蔵 世界労働運動史コレクション 996点

このコレクションは、「イギリス労働運動史」の著者として知られる労働運動史家アレン・ハットが所蔵していた、イギリス並びに英ソ関係を中心とした世界労働運動史の様々な文献から成り立っています。



■産学・地域連携センター

産学・地域連携センターは、産学連携、地域連携、知的財産及び機器分析支援の4部門から構成されています。「産学連携部門」は、地域・産業界からの科学技術相談に対応するとともに、大学シーズと企業ニーズをマッチさせて共同研究への展開を支援しています。「地域連携部門」は、公開講座の運営など、大学と地域社会との架け橋として、さまざまな大学開放事業や地域連携事業を推進しています。「知的財産部門」は、研究成果から生じた知的財産を管理し、特許等の取得や地域・産業界への還元を行っています。「機器分析支援部門」は、高度な分析機器を多数所有しており、各種試験・分析の依頼に応えています。このように、本学の産学・地域連携の窓口として、産業界や地域の振興に貢献しています。

■教育・学生支援センター

教育・学生支援センターは、教育企画部門と学生支援部門からなり、大学教育に関わる企画事業と学生支援事業を行っています。教育企画部門は、共通教育、専門教育から大学院教育までの大学教育の在り方に関わる研究を背景に教育方法、教育環境の改善を推進しています。学生支援部門は、課外活動、経済・生活支援及びキャリア支援に関する事業を通じて学生の支援を推進しています。

■フロンティア科学実験総合センター

フロンティア科学実験総合センターは、「生理活性物質研究部門」、「ゲノム生命環境科学研究部門」、「開放系栽培研究ほ場安全管理部門」及び「実験支援部門」の4部門で構成され、先端的な生命科学研究を推進するとともに、学内の教育・研究活動の幅広い支援を行っています。「生理活性物質研究部門」では生理活性ペプチドの探索や機能解明を進めており、「ゲノム生命環境科学研究部門」では微生物のゲノム解読を中心とした研究を行っています。「開放系栽培研究ほ場安全管理部門」では遺伝子組換え植物の第一種使用を行うための開放系ほ場の安全管理を行っています。また、「実験支援部門」は、「生物資源分野」、「遺伝資源分野」、「分子形態・機能解析分野」及び「R1分野」の4分野で構成され、本学の広範な教育研究活動を支援するとともに、専任教員が配置されている「生物資源分野」と「遺伝資源分野」では、当該分野に関連した独自の研究も進めています。

■国際連携センター

国際連携センターは、本学の世界への架け橋として、学術研究や教育の国際連携・協力事業の企画立案やサポートを行っています。「国際協力部門」では、学術交流のほか、JICAと連携して、保健医療、アジア地下水砒素汚染対策、農業開発などの事業を行っています。「留学生支援部門」では、多言語教育・日本語教育、国際広報、学生交流プログラム、生活指導などの事業を行っています。

■産業動物防疫リサーチセンター

産業動物防疫リサーチセンターは、宮崎県で発生した口蹄疫と高病原性鳥インフルエンザの防疫対策を行った経験から、平成23年10月に世界水準の教育・研究体制の確立を目指して設置されました。「防疫戦略部門」、「感染症研究・検査部門」、「国際連携・教育部門」、「畜産研究・支援部門」の4部門を置き、産業動物の重要な伝染病に対する疫学、国際防疫及び診断・予防法に関する先端的研究に取り組んでいます。また、発生時の防疫措置の立案及び再発防止等の適切な対策を講じることのできる危機管理能力を有した人材を養成し、産業動物防疫に関する教育・研究の拠点として、国内外の畜産基盤の安定化に寄与していきます。





安全衛生保健センター

安全衛生保健センターは、学生及び教職員の心身の健康管理を専門的にサポートすると共に、学内で発生する事故を予防し、安全で快適な教育・研究・職場環境を形成するための提言や指導を行うための施設です。日常業務では、急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っています。また、実験・研究中や作業中の事故を防止するための啓発活動や各種安全マニュアルの策定等も行っています。

■主な業務内容は以下のとおりです。

1. 定期及び臨時健康診断とその保健指導等
2. 健康相談及び一次救急処置
3. 心の健康保持に必要な精神医療相談
4. 学内の環境衛生等に対する助言・指導
5. 保健管理・労働安全のための調査研究
6. 健康保持増進への予防医学的啓発と学生教育の支援
7. 職場復帰のための復職支援



情報統括機構

■情報基盤センター

情報基盤センターは、情報施策の立案・策定、点検・検証及び情報基盤、情報システム等の運用管理を行うとともに、情報利用者支援を行います。情報基盤センターは、「情報基盤部門」、「利用者支援部門」で構成され、各部門の主な業務は、以下のとおりです。

情報基盤部門

1. 情報化推進の立案・策定・実施
2. 事業計画の実施及び管理経費の執行
3. 学内情報基盤の整備、更新及び運用管理
4. 学内情報ネットワーク及び情報システムの整備、更新及び運用管理
5. 学外情報ネットワークとの連携、その利用及び支援

利用者支援部門

1. 学内情報ネットワーク及び情報システム利用者の支援
2. 情報教育の支援
3. 各種情報システムの支援
4. 情報セキュリティ
5. 最適化計画及び各種ポリシーの策定・実施

●公開講座等の大学開放事業

宮崎大学では、公開講座、自治体等との連携による指導者養成事業、全国からの受講者が集まる「シニアカレッジ」など、大学開放事業の充実を図っています。さらに、地域連携および学生の実践的な教育の観点から、「卒業研究テーマ」を一般に公募し、寄せられた研究テーマについて本学の学生が研究し発表するプログラムも実施しています。

●遠隔教育、情報提供の推進

宮崎大学では、宮崎健康福祉ネットワーク（はにわネット）、宮崎情報ハイウェイ21（MJH21）等を活用した遠隔医療、遠隔教育等を実施しているほか、学内にインターネット放送局（Myaoh.TV）を開設し、地域への情報発信を積極的に行っています。このほか、宮崎科学技術館に「宮崎大学展示コーナー」を設置し、本学の最先端の教育・研究の成果を広く県民に発信しています。

●高等教育コンソーシアム宮崎

宮崎大学は、県内11の高等教育機関が連携した「高等教育コンソーシアム宮崎」の基幹大学として、単位互換、インターカレッジセミナー、合同進学説明会、インターンシップ事業などを行っています。

●中学・高校等との連携事業

宮崎大学では、中学・高校等との連携を一層強化するため、出前講義、体験授業、公開授業などを継続的に実施しています。また、小・中・高教員の研修も含めた新しい「科学夢チャレンジ」事業を、宮崎県教育委員会との連携により取り組んでいます。

●地域住民に対する施設等の開放

宮崎大学は、附属図書館や農学部附属農業博物館、体育施設等を地域住民に対し開放しており、ホームページからも利用案内や予定表などが閲覧できるようになっています。今後も、地域住民の利用促進を図り、引き続き、施設等の開放を積極的に進めていきます。

●宮崎大学サテライト・オフィス

地域社会への情報発信の場として、また地域の人々と交流しニーズを捉えるアンテナとして、更には県内の教育研究機関（高等教育コンソーシアム宮崎）との交流・連携の場として機能することを目的に、サテライト・オフィスを宮崎市の中心部（宮崎市橘通3-3-24MCCビル1階）に設置しています。同オフィスでは、本学及び高等教育コンソーシアム宮崎加盟機関の広報活動をはじめ、宮崎市街地で就職活動・教育活動等を行う学生の支援、放送大学学習相談会の開催等を展開しています。また、通りに面した場所には大型モニターが設置されており、教育研究活動や公開講座等の情報を映像で案内しています。 業務時間：火曜日～日曜日 11時～14時、15時～18時（祝日を除く）

●地域との連携協定

宮崎大学では、本学の知的・人的資源を活用して地域経済の活性化、地域社会の発展、学術・文化の振興に貢献するため、関係機関と連携協力しています。



日向市と包括的連携に関する協定を締結



ビームダウン式太陽集光装置完成式典



中高校生を対象とした太陽光発電について学ぶ体験講義



インターネット放送局(MyaoH.TV)



高等教育コンソーシアム宮崎



宮崎大学サテライト・オフィス

●科学技術相談受付及び技術支援

宮崎大学では、研究開発、技術改良等に関わる科学技術相談を受け付けています。専任の職員が相談に関する連絡調整を行い、相談の内容によって専門分野の教員が相談に応じ、技術的支援を行います。

●共同研究及び受託研究の推進

宮崎大学では、本学への「科学技術相談」と「学内の研究シーズ」とのマッチングを図り、共同研究等へのコーディネートを行うとともに、企業等における新製品・新技術の創出に関する支援を行っています。



ビームダウン式太陽集光装置



技術・研究発表交流会

●大学発ベンチャー企業の育成及び支援

宮崎大学では、本学との共同研究等により得られた成果を基にベンチャー企業を立ち上げた場合、一定の期間、研究室を無償で使用できるなど支援を行っています。

●企業等への学術情報の提供

宮崎大学では、研究シーズ、共同研究成果あるいは特許等をベースに、さらなる共同研究や産学官連携プロジェクトを推進するため、宮崎大学の研究を紹介するセミナーや共同研究実施企業・機関との技術・研究発表交流会等を開催しています。



宮崎日日新聞『みやびズ』寄稿コラム・タイトルカット



マーケティング支援セミナー

●知的財産に係る技術移転及び実用化の推進

宮崎大学では、本学で得られた知的財産を社会に還元するため、外部機関と連携するほか、各種イベントへの出展や各種説明会等への参加により技術的移転を図っています。



みやだい美食倶楽部「宮☆シュラン」の活動

●分析技術向上の支援

宮崎大学では、新しい分析技術の紹介と分析機器利用者による研究発表の場として、学外の企業等技術者にも参加してもらい、「分析講演会」を毎年開催しています。また、専任の職員を中心に、企業等からの分析技術相談にも適切に応じられる体制を整えています。



分析講演会

●分析機器利用の支援

宮崎大学では、機器分析支援施設に設置された分析機器を学外の企業等技術者にも利用いただけるように支援体制を整えています。学外からの分析・測定依頼も受け入れています。



留学生見学旅行



異文化交流体験学習(中国・南京)

宮崎大学は、国際交流事業として①学術交流、②学生交流、③国際協力、④地域の国際化への貢献の4つの柱を据え、地理的・歴史的な関係から、東アジア・東南アジアの大学等を中心に、活発な交流を展開しています。

●研究者の海外派遣・受入れ

文部科学省、日本学術振興会、国際協力機構（JICA）及び各種機関の助成等により、年間約400名の研究者が海外に派遣されており、外国人研究者も積極的に受け入れています。

●国際協力

本学ではJICAやNGO等と連携しながら、アジアや中南米等の開発途上国に対して積極的な国際協力を展開しています。

●国際交流協定

全学的・戦略的な学術交流・学生交流を推進するため、47の国や地域の大学等と交流協定を締結しています。うち、34大学とは学生交流覚書（授業料等相互不徴収）を締結し、活発な学生交流を図っています。

●留学生の受入れ

19カ国から国費・私費・外国政府派遣の留学生121名を受け入れ、教育研究を行うと共に、生活支援、学内での交流事業等を実施し、諸外国の指導的人材の育成に努めています。

●学生の海外派遣

宮崎大学では、学生交流覚書を締結している大学に、学生を派遣しています。協定による留学は、休学の必要がなく留学先の大学の授業料等は免除されます。また、留学先で取得した単位を宮崎大学の単位とすることができます。

●短期学生交流の実施

宮崎大学では、海外の協定校と短期学生交流を実施しています。学生が相互訪問し、ホームステイ等を通じ、お互いの文化を学び、交流を深めています。また、教養発展科目「異文化交流体験学習」の単位が認められています。

●海外オフィス

宮崎大学は、インドネシア・マラン市に海外拠点を設置しています。インドネシアでは、本学大学間協定校であるブラウィジャヤ大学内にオフィスを設置し、本学とブラウィジャヤ大学との学術交流・学生交流を支援しています。

●地域社会の国際化への貢献

本学の外国人留学生は、県内の小中学校における各種国際交流事業や、国際交流団体が開催する国際理解事業等に参加し、地域社会の国際化へ貢献しています。

■主な学生交流覚書締結校

国名等	大学名	募集学部等	派遣学生
中国	上海交通大学	全学部	2名以内
韓国	順天大学校	全学部	3名以内
アメリカ	エヴァーグリーン州立大学	全学部	2名以内
スロベニア	リュブリャナ大学	全学部	1名以内
インドネシア	ブラウィジャヤ大学	全学部	3名以内
中国（台湾）	国立政治大学	教育文化学部	2名以内
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部	医学部医学科	4名以内
タイ	チュラロンコン大学獣医学部	農学部	2名以内

※その他派遣が可能な大学：南京農業大学・青海大学・西北農林科技大学・長沙理工大学・中国農業大学（中国）、開南大学・東吳大学外国語文学院（中国（台湾））、カセサート大学・キンク・モンクット工科大学生物資源技術学部（タイ）、ポゴール農科大学・ハサヌディン大学・ガジャマダ大学工学部（インドネシア）、瀋南大学校・全北大学校・慶北大学校・釜山外国語大学校日本語学部・釜慶大学校水産科学部（韓国）、ハノイ農業大学（ベトナム）、フィリピン大学ロス・パニヨス校・セントラル・ルソン国立大学（フィリピン）、モンゴル国立農業大学・モンゴル国立大学（モンゴル）、フエノスアイレス大学農学部（アルゼンチン）、サンパウロ大学農学部ルイス・デ・ケイロス校（ブラジル）カリアリ大学（イタリア）、インディアナ大学・パデュー大学フォートウェイン校（米国）

宮崎までの交通アクセス

■航空機

- 東京 — 宮崎 (105分)
- 名古屋 — 宮崎 (80分)
- 大阪 — 宮崎 (70分)
- 福岡 — 宮崎 (40分)
- 沖縄 — 宮崎 (80分)

■高速バス

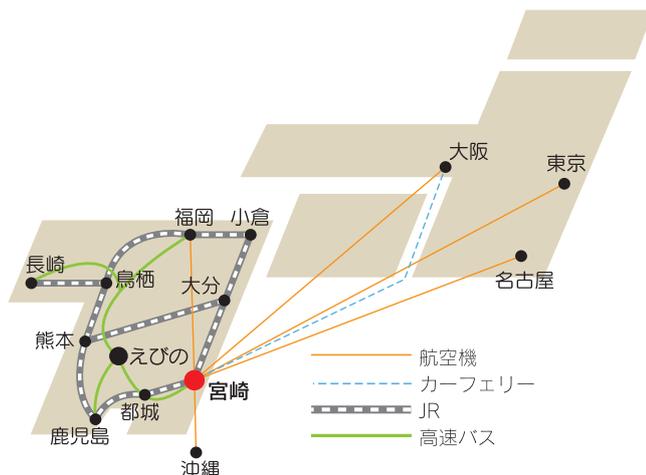
- 福岡 — 宮崎 (4時間)
- 熊本 — 宮崎 (3時間)
- 鹿児島 — 宮崎 (2時間30分)
- 長崎 — 宮崎 (5時間20分)

■JR (特急)

- 博多 — 宮崎 (3時間45分)
- 小倉 — 宮崎 (4時間)
- 熊本 — 宮崎 (3時間)
- 大分 — 宮崎 (3時間)
- 鹿児島 — 宮崎 (2時間10分)

■カーフェリー

- 大阪 — 宮崎 (14時間)



宮崎大学までの交通機関

(JR南宮崎駅近く)	宮交バス		
宮交シティバスセンター	→ 「宮崎大学・大学病院行」に乗車	→	約25分
JR清武駅 (徒歩2分) JR清武駅前バス停 (徒歩5分) 清武総合支所前バス停	宮交バス	→ 「宮崎大学・大学病院行」に乗車	→ 約15分
宮崎空港	タクシー	→ 宮崎大学まで約8km	→ 約15分
宮崎港	宮交バス	→ 「宮交シティ行」	→ 約30分
宮崎自動車道	宮交バス	→ 「宮崎大学・大学病院行」に乗車	→ 約25分
東九州自動車道	宮交バス	→ 清武インターチェンジから	→ 約10分
		→ 宮崎インターチェンジから	→ 約10分

施設位置図

- ① 宮崎大学 (木花キャンパス)
- ② 宮崎大学医学部 (清武キャンパス)
- ③ 住吉フィールド (牧場)
- ④ 田野フィールド (演習林)
- ⑤ " (大納地区)
- ⑥ " (崎田地区)
- ⑦ 延岡フィールド (水産実験所)
- ⑧ 附属小学校・附属中学校
- ⑨ 附属幼稚園
- ⑩ サテライト・オフィス



Kibana Campus

木花キャンパス



農学部

- ① 実験研究棟(北)
- ② 講義棟
- ③ 実験研究棟(南)
- ④ 実験研究棟(獣医)
- ⑤ 附属動物病院
- ⑥ 附属農業博物館
- ⑦ 標本植物温室
- ⑧ 附属フィールド科学教育研究センター
- ⑨ 産業動物教育研究センター

教育文化学部

- ⑩ 講義棟
- ⑪ 実験研究棟
- ⑫ 美術棟
- ⑬ 技術・家庭棟
- ⑭ 音楽棟
- ⑮ 附属教育実践総合センター

工学部

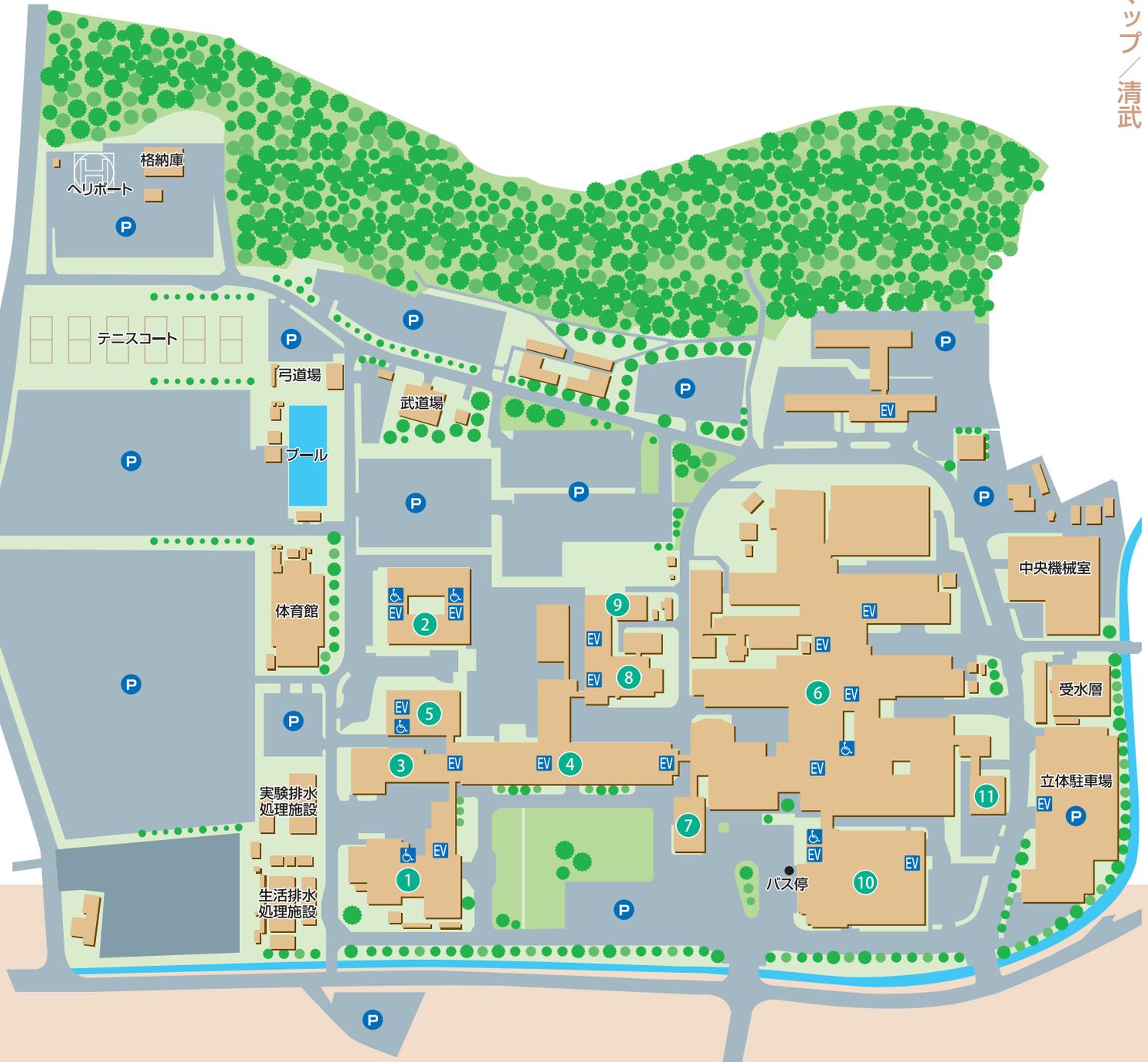
- ⑯ 実験研究棟(A棟)
- ⑰ 講義棟(B棟)
- ⑱ 実験研究棟(C棟)
- ⑲ 機械実習工場
- ⑳ 機械工学実験実習棟
- ㉑ 高電圧実験棟
- ㉒ 土木工学実験実習棟
- ㉓ 実験研究棟(E棟)

- ㉔ 大会館
(教育・学生支援センター、学生食堂
インフォメーションコーナー)
- ㉕ 附属図書館(本館)
- ㉖ 事務局棟
- ㉗ 安全衛生保健センター
- ㉘ 情報基盤センター
- ㉙ フロンティア科学実験総合センター(RI木花分室)
- ㉚ 産学・地域連携センター(産学連携施設)
- ㉛ 国際連携センター
- ㉜ 産学・地域連携センター(機器分析支援施設)
- ㉝ フロンティア科学実験総合センター(遺伝資源分野)
- ㉞ 総合研究棟
- ㉟ 国際交流宿舎
- ㊱ 女子寄宿舎
- ㊲ 男子寄宿舎

 多目的トイレ
 エレベーター

Kiyotake Campus

清武キャンパス



医学部

- | | |
|---------------|---------------------------|
| ① 講義実習棟 | ⑧ フロントア科学実験総合センター(RI清武分室) |
| ② 総合教育研究棟 | ⑨ フロントア科学実験総合センター(生物資源分野) |
| ③ 福利施設棟 | ⑩ 外来診療棟 |
| ④ 基礎臨床研究棟 | ⑪ 救命救急センターHP棟 |
| ⑤ 附属図書館(医学分野) | |
| ⑥ 附属病院 | |
| ⑦ 管理棟 | |

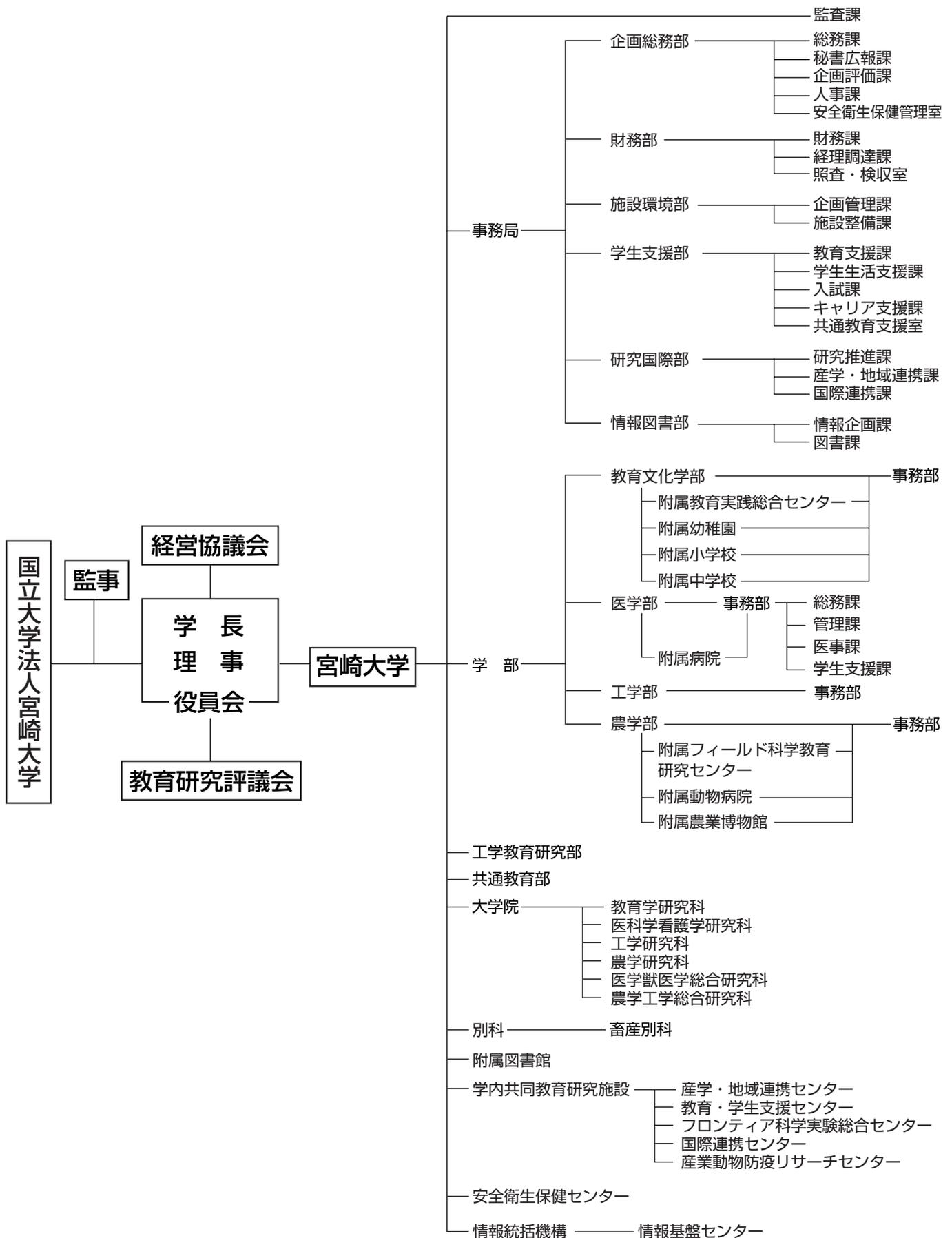
-  多目的トイレ
-  エレベーター

宮崎大学概要 [資料編]

目 次 (資料編)

機構図	26
役職員	27
職員数	28
歴代学長	28
沿革	29
学部・大学院等	33
附属図書館	34
医学部附属病院	35
学生・生徒・児童及び園児数	36
平成25年度入学状況	39
卒業生・修了者数	41
博士の学位授与者数	42
平成24年度就職状況	43
奨学生状況	44
国際交流	45
連携協定機関	47
平成24年度公開講座実施状況	47
平成24年度経理状況	48
学生関係施設	50
土地・建物	51
施設所在地	52

機構図



役員

役員会委員 : ○印
 経営協議会委員 : ●印
 教育研究評議会評議員 : ○印

学長		菅 沼 龍 夫	◎●○
理事	副学長 (研究・企画担当)	原 田 宏	◎●○
	副学長 (教育・学生担当)	岩 本 俊 孝	◎●○
	医学部附属病院長 (病院担当)	池ノ上 克	◎●○
	事務局長 (総務担当)	松ヶ迫 和峰	◎●○
副学長	法務担当	日 野 直 彦	◎
	(目標・評価担当)	松 下 洋 一	○
	(入試担当)	村 岡 嗣 文	○
	(産学・地域連携担当)	堀 井 洋 一 郎	○
監事	(国際連携担当)	丸 山 眞 杉	○
	高山 幹 男		
	肥田木 良 博		
	稲 倉 正 孝	●	
経営協議会学外委員	(社)宮崎県医師会会長	稲 倉 正 孝	●
	元宮崎県教育委員会教育長	岩 切 正 憲	●
	前長崎大学長	斎 藤 寛	●
	株式会社宮崎銀行代表取締役頭取	小 池 光 一	●
	雪印メグミルク株式会社特別相談役	高 野 瀬 忠 明	●
	旭化成(株)顧問	水 永 正 憲	●
教育研究評議会評議員	教育文化学部教授	入 谷 貴 夫	○
	医学部教授	浅 田 祐 士 郎	○
	工学部教授	古 谷 博 史	○
農学部教授	香 川 浩 彦	○	
	伊 達 紫		
理事補佐	(男女共同参画担当)	伊 達 紫	
事務局	事務局長	松ヶ迫 和峰	
	企画総務部長	園 邊 邦 輝	
	財務部長	能 住 勝 徳	
	施設環境部長	森 山 直 治	
	学生支援部長	徳 丸 利 秋	
	研究国際部長	瀬 戸 山 泰 彦	
	情報図書部長	上 村 茂 樹	
	監査課長	下 川 新 吾	
	総務課長	原 義 彦	
	秘書広報課長	龍 元 裕 貴	
	企画評価課長	風 間 広 幸	
	人事課長	道 鬼 安 男	
	安全衛生保健管理室長	後 藤 節 子	
	財務課長	比 江 島 孝 司	
	経理調達課長	児 玉 秀 樹	
	照査・検収室長事務代理	能 住 勝 徳	
	企画管理課長	壽 福 初 美	
	施設整備課長	内 村 好 美	
	教育支援課長	佐 藤 晃 一	

学生生活支援課長	宮 崎 孝 行
入試課長	黒 原 敏 博
キャリア支援課長	丸 山 秀 人
共通教育支援室長(兼)	徳 丸 利 秋
研究推進課長	三 好 学
産学・地域連携課長	山 崎 学
国際連携課長	齋 藤 義 弘
情報企画課長(兼)	上 村 茂 樹
図書課長	黒 木 俊 弘
教育文化学部	学部長 児 玉 修 ○
附属教育実践総合センター長	添 田 佳 伸
附属幼稚園長	戸 島 信 一
附属小学校長	河 原 国 男
附属中学校長	山 田 利 博
事務課長	榮 留 文 夫
医学部	学部長 迫 田 隅 男 ○
附属病院長	池ノ上 克
事務部長	原 田 隆 治
総務課長	濱 野 満 夫
管理課長	調 卓 二
医事課長	東 家 廣 典
学生支援課長	池 田 光 弘
工学部	学部長 今 井 富 士 夫 ○
事務課長	横 山 寛
農学部	学部長 村 上 昇 ○
附属フィールド 科学教育研究センター長	福 山 喜 一
附属動物病院長	浅 沼 武 敏
附属農業博物館長	宇 田 津 徹 朗
事務課長	福 留 孝 司
工学教育研究部	工学教育研究部長 今 井 富 士 夫
共通教育部	部長 酒 井 正 博 ○
教育学研究科	研究科長 新 地 辰 朗 ○
医科学看護学研究科	研究科長(併) 迫 田 隅 男
工学研究科	研究科長(併) 今 井 富 士 夫
農学研究科	研究科長(併) 村 上 昇
医学獣医学総合研究科	研究科長(併) 迫 田 隅 男
農学工学総合研究科	研究科長 碓 哲 雄 ○
附属図書館	館長(併) 岩 本 俊 孝
産学・地域連携 センター	センター長 堀 井 洋 一 郎 ○
教育・学生支援 センター	センター長(併) 岩 本 俊 孝
フロンティア科学 実験総合センター	センター長 林 哲 也 ○
国際連携センター	センター長(併) 丸 山 眞 杉
安全衛生保健 センター	センター長 石 田 康
産業動物防疫リ サーチセンター	センター長 三 澤 尚 明 ○
情報基盤センター	センター長 廿 日 出 勇

職員数

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

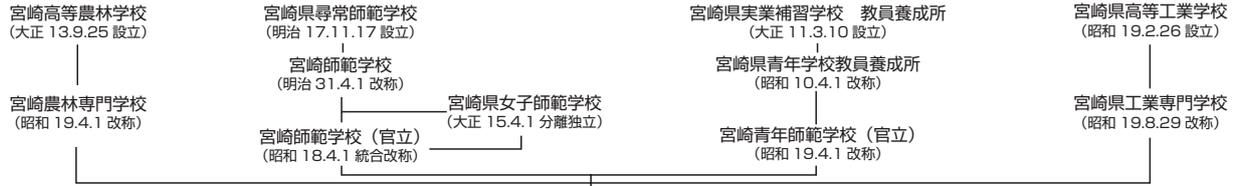
部局等	区分	学長	監事	理事	教授	准教授	講師	助教	助手	小計	附属学 校教員	事務局 等職員	合計
学長		1											1
監事			(1) 2										(1) 2
理事				(1) 5									(1) 5
事務局												186	186
教育文化学部					30	37	10			77		11	105
教育学研究科					7	10				17			
附属幼稚園											7		
附属小学校											31	3	69
附属中学校											28		
医学部					44	28	13	83	4	172		135	307
附属病院					2	10	27	101		140		654	794
工学部												34	34
工学教育研究部					39	31		18		88			88
農学部					44	42	1	20		107		17	124
附属フィールド科学教育研究センター					3	2		1	1	7		18	25
附属動物病院					1	1				2			2
附属農業博物館					1					1			1
テニユアトラック推進機構						1		3		4			4
IR 推進機構								9		9			9
産学・地域連携センター						5		1		6		1	7
教育・学生支援センター						4	1			5		1	6
フロンティア科学実験総合センター					5	2		4		11		11	22
国際連携センター						1	1	1		3			3
産業動物防疫リサーチセンター					3					3			3
安全衛生保健センター					1		1			2		4	6
情報基盤センター						1		1		2			2
計		1	(1) 2	(1) 5	180	175	54	242	5	656	66	1,075	(2) 1,805

※常勤職員数（ただし、監事（1）・理事（1）については、非常勤で内数）

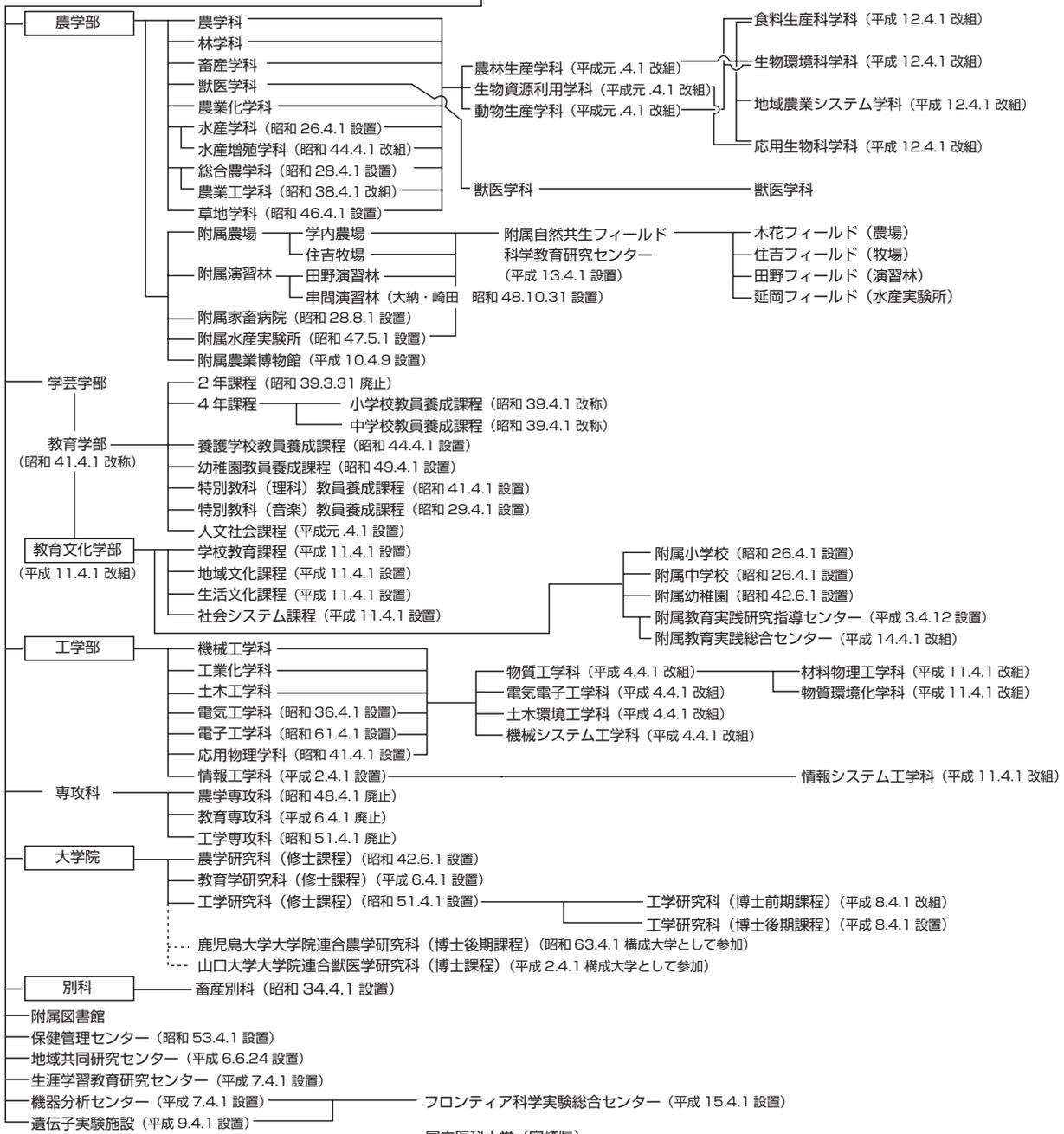
歴代学長

旧宮崎大学			宮崎医科大学		
氏名	在任期間	備考	氏名	在任期間	備考
高橋 隆 道	S24. 5.31 ~ S27. 7.25	(事務取扱)	勝木 司馬之助	S49. 6. 7 ~ S55. 6.30	(事務取扱)
杉原 清 一	S27. 7.26 ~ S28. 8. 1		玉井 達 二	S55. 7. 1 ~ S61. 3.31	
栗原 一 男	S28. 8. 1 ~ S32. 7.31		常俊 義 三	S61. 4. 1 ~ S61. 5.31	
甲斐 三 郎	S32. 8. 1 ~ S38. 7.31		岡本 直 正	S61. 6. 1 ~ H 2. 3.31	
岩村 岳	S38. 8. 1 ~ S42. 7.31		木下 和 夫	H 2. 4. 1 ~ H 8. 3.31	
廣田 輝 雄	S42. 8. 1 ~ S46. 7.31		森 満 保	H 8. 4. 1 ~ H14. 3.31	
外山 三 郎	S46. 8. 1 ~ S50. 7.31		松尾 壽 之	H14. 4. 1 ~ H15. 9.30	
井上 由 扶	S50. 8. 1 ~ S56. 7.31				
三善 正 市	S56. 8. 1 ~ S58.10.16				
木村 正 雄	S58.10.16 ~ S58.11.30				
遠藤 尚	S58.12. 1 ~ H元.11.30				
池田 一	H元.12. 1 ~ H 7.11.30				
二神 光 次	H 7.12. 1 ~ H13.11.30				
藤原 宏 志	H13.12. 1 ~ H15. 9.30				
宮崎大学					
	住吉 昭信	H15.10.1 ~ H21.9.30			
	菅沼 龍夫	H21.10.1 ~ H27.9.30			

沿革

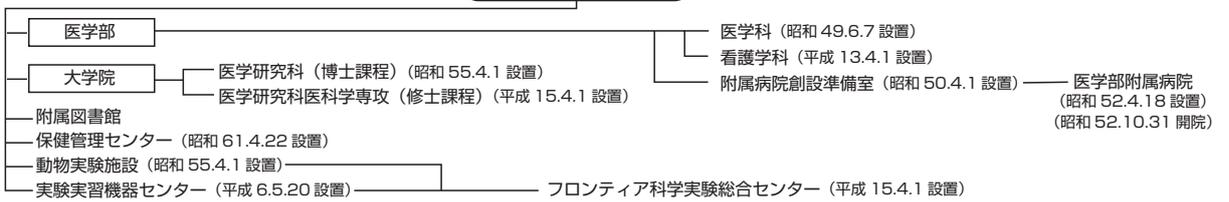


旧宮崎大学 (昭和 24.5.31 設置)

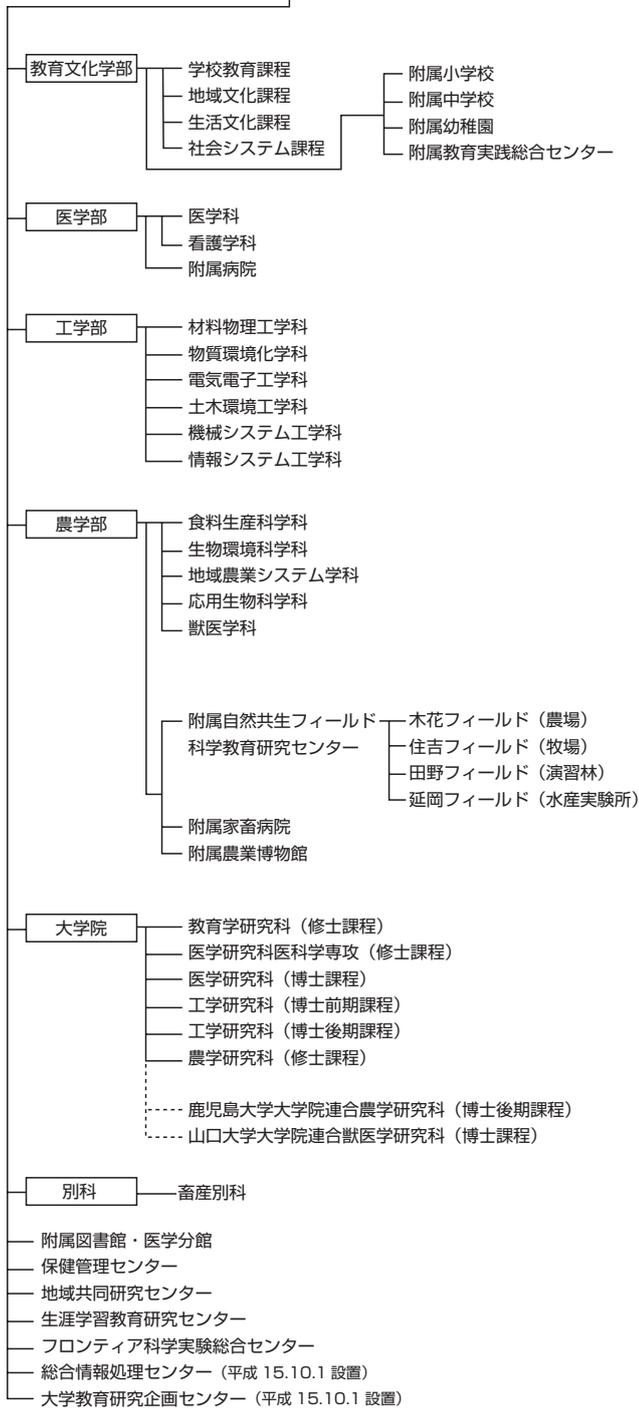


国立医科大学 (宮崎県) 創設準備室 (昭和 48.10.1 設置)

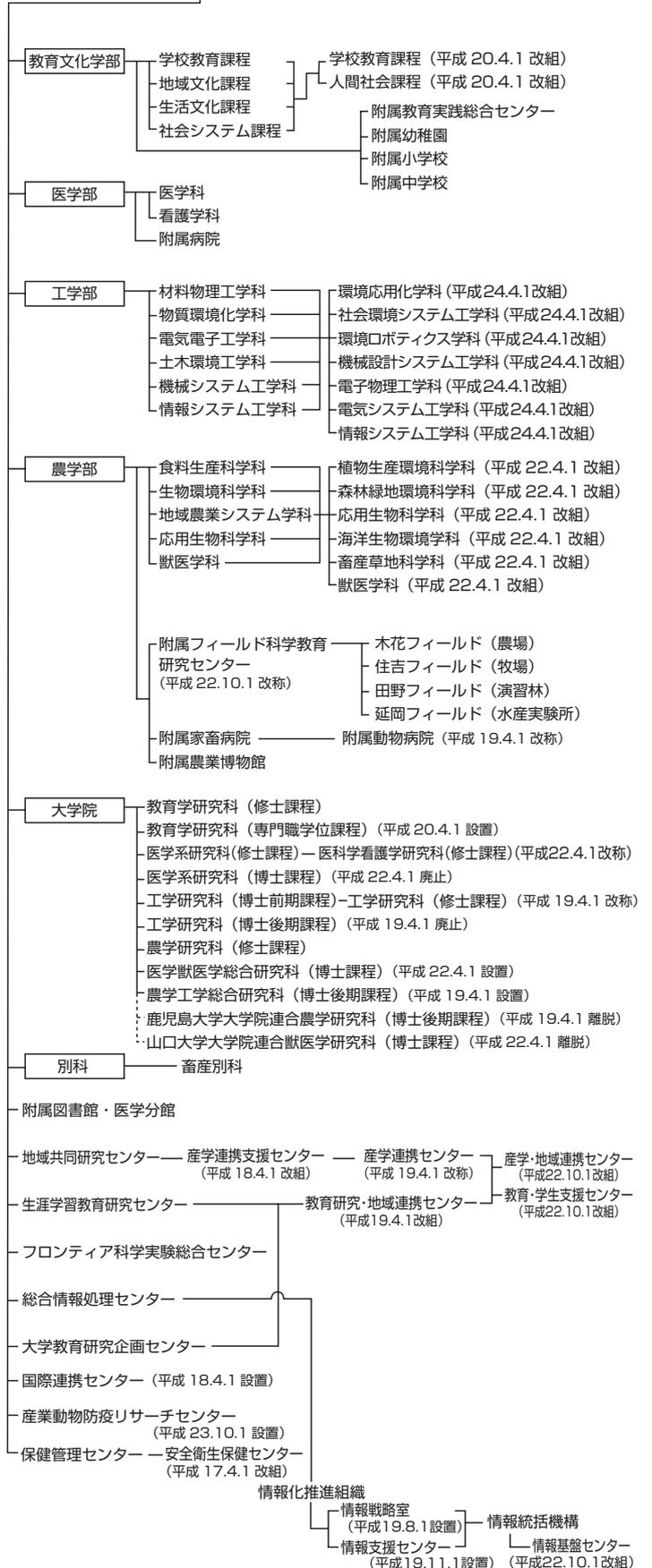
宮崎医科大学 (昭和 49.6.7 設置)



新宮崎大学 (平成 15.10.1 統合)



国立大学法人宮崎大学 (平成 16.4.1 法人化)



沿革 [年表]

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
S24. 5.31	宮崎大学（農学部、学芸学部、工学部）の設置	
7.18	第1回入学式挙行、授業開始	
S26. 4. 1	学芸学部附属小学校及び附属中学校を設置 農学部水産学科を設置	
S28. 3. 8	開学記念式典挙行	
3.10	第1回卒業式挙行	
4. 1	農学部総合農学科を設置	
8. 1	農学部附属家畜病院を設置	
S29. 4. 1	学芸学部特別教科（音楽）教員養成課程を設置	
S31. 4. 1	農学専攻科を設置し、修業期間を1年とした	
S34. 4. 1	学芸専攻科、工業専攻科及び別科（畜産別科）を設置し、それぞれ修業期間を1年とした	
S36. 4. 1	工学部電気工学科を設置	
S38. 4. 1	農学部総合農学科を改組し、農業工学科を設置	
S39. 3.31	学芸学部2年課程を廃止	
4. 1	学芸学部4年課程第一部及び第二部をそれぞれ小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程に改称	
S41. 4. 1	学芸学部を教育学部に改称 教育学部に特別教科（理科）教員養成課程、工学部に応用物理学科を設置	
S42. 6. 1	大学院農学研究科（修士課程）を設置 教育学部附属幼稚園を設置	
S44. 4. 1	農学部水産学科を改組し、水産増殖学科を設置 教育学部養護学校教員養成課程を設置	
S46. 4. 1	農学部草地理学を設置	
S47. 5. 1	農学部附属水産実験所を設置	
S48. 4. 1	農学専攻科を廃止	
10. 1		宮崎大学に「国立医科大学（宮崎県）創設準備室」を設置
10.31	串間演習林（大納・崎田）を設置	
S49. 4. 1	教育学部幼稚園教員養成課程を設置	
S49. 6. 7		宮崎医科大学の設置（国立医科大学（宮崎県）創設準備室を廃止）
7. 4		第1回入学式挙行
7.29		開学記念式典挙行
S50. 4. 1		附属病院創設準備室を設置
S51. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を設置 工学専攻科を廃止	
S52. 4.18		医学部附属病院を設置（附属病院創設準備室を廃止）
10.29		宮崎医科大学竣工・医学部附属病院開院記念祝典挙行
10.31		医学部附属病院開院（320床）
S53. 4. 1	保健管理センターを設置	
S54. 2. 7		医学部附属病院の病床が120床増床される（計440床）
5.31	宮崎大学創立30周年記念式典挙行	
6. 1		医学部附属病院の病床が160床増床される（計600床）
8.10	文部省、宮崎大学の移転統合を正式に認可	
12.27	農学部農業博物館を博物館相当施設として指定（文部省告示）	
S55. 3.25		第1回卒業式挙行
4. 1		大学院医学研究科（博士課程）を設置 医学部附属動物実験施設を設置
S59. 6. 7		宮崎医科大学開学10周年記念式典挙行
11.19	農学部第1次移転完了	
S60. 1.24	農学部第2次移転完了	
S61. 3.18	事務局の移転完了	
3.31	学生部及び保健管理センターの移転完了	
4. 1	工学部電子工学科を設置	
4.22		保健管理センターを設置
5.23	事務局・学生部移転記念式典挙行	
9.13	工学部及び計算機・分析両センターの移転完了	
S62. 8.31	附属図書館の移転完了	
10.31		医学部附属病院開院10周年記念式典挙行
S63. 4. 1	鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
5.25		医学部附属病院輸血部を設置
9. 7	教育学部の移転完了	
H元. 4. 1	農学部改組 教育学部人文社会課程を設置	
10. 1	計算機センターを情報処理センターに改称	
11.11	移転完了記念式典・祝賀会挙行	
H2. 4. 1	工学部情報工学科を設置 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）が設置され、農学部が構成大学として参加	
6. 8		医学部附属病院救急部を設置
H3. 4.12	教育学部附属教育実践研究指導センターを設置	
H4. 4. 1	工学部改組 地域交流センター（学内措置）を設置（後に地域共同研究センター、生涯学習教育研究センターへ改組）	
4.10		医学部附属病院集中治療部を設置

年月日	旧宮崎大学	宮崎医科大学
H 6. 4. 1	大学院教育学研究科（修士課程）を設置 教育専攻科を廃止	
5.20		医学部附属実験実習機器センターを設置 医学部附属病院医療情報部を設置
6.24	地域共同研究センターを設置	
10. 1		特定機能病院として承認
10.29		宮崎医科大学開学 20 周年記念式典挙行
H 7. 4. 1	生涯学習教育研究センター及び機器分析センターを設置 分析センター廃止	
H 8. 4. 1	大学院工学研究科（修士課程）を改組し、大学院工学研究科（博士前期課程）を設置 大学院工学研究科（博士後期課程）を設置	医学部附属病院周産母子センターを設置
H 9. 4. 1	遺伝子実験施設を設置	
11.14		医学部附属病院開院 20 周年記念式典挙行
H10. 4. 1		医学部附属病院病理部を設置
4. 9	農学部附属農業博物館を設置	
H11. 4. 1	教育学部を改組し、教育文化学部に変更 工学部改組	情報処理センターを設置
5.28	宮崎大学創立 50 周年記念式典挙行	
H12. 4. 1	農学部改組	医学部附属病院光学医療診療部を設置
H13. 4. 1	附属農場、附属演習林及び附属水産実験所を統合して、農学部附属 自然共生フィールド科学教育研究センターを設置	医学部看護学科を設置
6. 5		医学部看護学科開設記念式典挙行
12.14	総合研究棟を新築	
H14. 4. 1	教育文化学部附属教育実践研究指導センターを附属教育実践総合セ ンターに改組	医学部附属病院リハビリテーション部を設置
H15. 2.17		病院機能評価認定
4. 1	フロンティア科学実験総合センターを設置 (機器分析センター、遺伝子実験施設、アイソトープセンターを廃止)	大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）を設置 フロンティア科学実験総合センターを設置 (動物実験施設、実験実習機器センターを廃止)

年月日	宮崎大学	
H15.10. 1	旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、新「宮崎大学」設置 大学教育研究企画センター及び総合情報処理センターを設置 情報処理センターを廃止	
H16. 3. 26	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（カリーノ宮崎 8 階ガガイト）に設置 総合教育研究棟を新築（清武キャンパス）	
4. 1	国立大学の法人化に伴い、法人の設置する宮崎大学となる	
H17. 4. 1	保健管理センターを改組し、安全衛生保健センターを設置 大学院医学研究科を医学系研究科に改称し、看護学専攻（修士課程）を設置	
H18. 4. 1	地域共同研究センターを改組し、産学連携支援センターを設置 国際連携センターを設置 医学部附属病院再整備開始	
H19. 4. 1	大学院工学研究科（博士後期課程）を廃止し、農学工学総合研究科（博士後期課程）を設置 鹿児島大学大学院連合農学研究科（博士後期課程）から離脱 大学院工学研究科（博士前期課程）を大学院工学研究科（修士課程）に改称 生涯学習教育研究センターと大学教育研究企画センターを統合し、教育研究・地域連携センターを設置 産学連携支援センターを産学連携センターに改称 農学部附属家畜病院を農学部附属動物病院に改称 宮崎大学くすの木保育園を開園	
8. 1	情報戦略室を設置	
11. 1	総合情報処理センターを廃止し、情報支援センターを設置	
12.26	医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニックを設置	
H20. 2. 8	都道府県がん診療連携拠点病院に指定	
H20. 4. 1	大学院教育学研究科（専門職学位課程）を設置 教育文化学部を改組 大学院医学系研究科（博士課程）を改組 医学部附属病院周産母子センターを改組し、医学部附属病院総合周産期母子医療センターを設置	
11.15	木花キャンパス移転 20 周年記念事業挙行	
H21. 4. 1	医学科入学定員を 5 名増加（入学定員 105 名） 7.24 肝疾患診療連携拠点病院に指定	
H22. 4. 1	大学院医学系研究科（博士課程）を廃止し、医学獣医学総合研究科（博士課程）を設置 大学院医学系研究科（修士課程）を医科学看護学研究科（修士課程）に改称 山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）から離脱 農学部を改組 医学科入学定員を 5 名増加（入学定員 110 名）	
5. 6	医学部附属病院新外来診療棟で診療を開始	
8. 4	サテライト・オフィスを宮崎市中心部（橋通西 3 丁目 MCC ビル 1 階）に移転	
10. 1	産学連携センター及び教育研究・地域連携センターを改組し、産学・地域連携センター及び教育・学生支援センターを設置 情報戦略室と情報支援センターを統合し、情報基盤センターを設置 農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センターを農学部附属フィールド科学教育研究センターに改称	
H23.10. 1	医学部附属病院地域総合医育成センターを設置	
H24. 2. 1	医学部血液・血管先端医療学講座を設置	
3.21	医学部血液・血管先端医療学講座の県北拠点を宮崎県立延岡病院に設置	
4. 1	工学部を改組 医学部附属病院救命救急センターを設置	
4.18	医学部附属病院において、ドクターヘリの運航を開始	
H25. 3. 1	医学部附属病院救命救急センター棟を設置	
3.31	医学部附属病院再整備完了	
4. 1	医学部附属病院地域総合医育成サテライトセンターを宮崎県立日南病院内に設置	

学部・大学院等

学部

学部	学科・課程	講座・コース
教育文化学部	学校教育課程	初等教育コース 中学校教育コース 特別支援教育コース
	人間社会課程	言語文化コース 社会システムコース
医学部	医学科	基礎系医学講座 解剖学 (組織細胞化学, 超微形態科学, 神経生物学) 機能制御学 (統合生理学, 応用生理学, 腫瘍生化学, 機能生化学, 薬理学, 心理学, 物理科学, 物質科学) 病理学 (構造機能病理学, 腫瘍・再生病理学) 感染症学 (微生物学, 寄生虫学, 免疫学) 社会医学 (公衆衛生学, 法医学, 生命・医療倫理学, 医療社会学, 数理科学, 英語, ドイツ語)
		臨床系医学講座 内科学 (循環体液制御学, 消化器血液学, 神経呼吸内分泌代謝学, 免疫感染病理学) 外科学 (腫瘍機能制御外科学, 循環呼吸・総合外科学, 泌尿器科学) 臨床神経科学 (精神医学, 脳神経外科学) 生殖発達医学 (小児科学, 産婦人科学) 感覚運動医学 (整形外科学, 皮膚科学, 眼科学, 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 顎顔面口腔外科学) 病態解析医学 (放射線医学, 麻酔生体管理学, 救急・災害医学)
	看護学科	基礎看護学講座, 成人・老年看護学講座, 小児・母性(助産専攻)看護学講座, 地域・精神看護学講座
工学部	環境応用化学科	
	社会環境システム工学科	
	環境ロボティクス工学科	
	機械設計システム工学科	
	電子物理工学科	
	電気システム工学科	
農学部	情報システム工学科	
	植物生産環境科学科	
	森林緑地環境科学科	
	応用生物科学科	
	海洋生物環境学科	
	畜産草地科学科	
	獣医学科	

工学教育研究部

大学院

研究科	専攻	専修・分野・部門・講座・領域・コース
教育学研究科 (修士課程)	学校教育支援	教育臨床心理専修, 日本語支援教育専修
教育学研究科 (専門職学位課程)	教職実践開発(教職大学院)	学校・学級経営コース, 生徒指導・教育相談コース, 教育課程・学習開発コース, 教科領域教育実践開発コース
医科学看護学研究科 (修士課程)	医科学	修士論文コース(基盤看護学分野(システム看護学領域、地域精神看護学領域)、実践看護学分野(ストレス対処看護学領域、母子健康看護学領域)) 専門看護コース(がん看護分野(がん看護領域))
	看護学	
工学研究科 (修士課程)	応用物理学	
	物質環境化学	
	電気電子工学	
	土木環境工学	
	機械システム工学	
農学研究科 (修士課程)	情報システム工学	
	生物生産科学	植物生産科学領域, 動物生産科学領域
	地域資源管理科学	農林資源計画学領域, 生産環境工学領域
	森林草地環境科学	森林科学領域, 草地環境科学領域
	水産科学	水産科学領域
医学獣医学総合研究科 (博士課程)	応用生物科学	生物機能科学領域, 食品機能化学領域
	医学獣医学	高度臨床医育成コース, 高度獣医師育成コース, 研究者育成コース
農学工学総合研究科 (博士後期課程)	資源環境科学	環境共生科学教育コース, 持続生産科学教育コース
	生物機能応用科学	生命機能科学教育コース, 水域生物科学教育コース
	物質・情報工学	新材料工エネルギー工学教育コース, 生産工学教育コース, 数理情報工学教育コース

寄附講座

部局名	研究部門名	設置期間	寄附者
医学部	地域医療学講座	平成22年4月1日～平成26年3月31日	宮崎県
	血液・血管先端医療学講座	平成24年2月1日～平成26年1月31日	宮崎県、延岡市

附属図書館

蔵書構成（本館）

（平成 25 年 4 月 1 日現在）

区分	総記	哲学・宗教	歴史・地理	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・美術	言語	文学	合計
和漢書	18,367	20,317	30,392	99,443	73,751	50,638	34,770	19,930	11,575	28,437	387,620
洋書	4,268	7,773	4,575	16,748	41,107	11,115	10,136	2,235	4,586	12,057	114,600
合計	22,635	28,090	34,967	116,191	114,858	61,753	44,906	22,165	16,161	40,494	502,220

蔵書構成（医学分館）

（平成 25 年 4 月 1 日現在）

区分	基礎教育等（和洋）							専門教育等									合計
	人文	社会	自然	外国語	保健 体育	その他	小計	基礎医学			臨床医学			看護学			
								和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	和書	洋書	小計	
蔵書	6,505	4,880	7,158	4,708	460	748	24,459	12,213	22,897	35,110	21,902	36,505	58,407	4,748	559	5,307	123,283

雑誌情報

区分	所蔵	
	本館	医学分館
和雑誌	9,191	2,210
洋雑誌	2,994	1,761
合計	12,185	3,971

開館時間

	本館	医学分館
平日	8:40 ~ 20:00 (17:00)	9:00 ~ 20:00 (17:00)
土曜日	10:00 ~ 16:00	13:15 ~ 17:00
日曜日	10:00 ~ 16:00	13:15 ~ 17:00

() 内は休業期間中の閉館時間

休館日

休業期間中の土曜日・日曜日、国民の祝・休日、年末年始(12/28-1/4)

※その他、臨時に開館時間の変更や休館を行う場合は掲示する。

利用状況

（平成 24 年度）

区分		本館		医学分館	
入館者(人)		156,421		183,479	
[うち学外者(人)]		[1,182]		[132]	
貸出	人数(人)	人数(人)	冊数(冊)	人数(人)	冊数(冊)
	学生	8,134	16,219	5,060	7,982
	教職員	1,313	12,085	712	1,352
	学外者	275	778	53	121
	合計	9,722	29,082	5,825	9,455
レファレンスサービス(件)		1,915		629	
学外文献	依頼(件)	1,771		1,606	
複写	受付(件)	1,096		2,021	

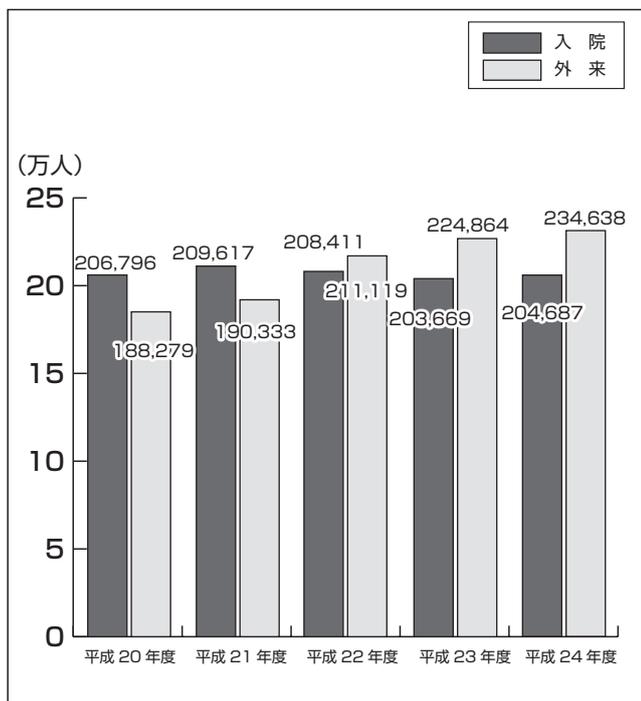
平成 24 年度医学部附属病院患者数

科名	区分	入院			外来			
		病床数	延患者数	1日平均患者数	初診	再診	延患者数	1日平均患者数
第一内科		46	16,214	44.4	2,109	15,145	17,254	70.4
第二内科		39	15,897	43.6	1,351	13,702	15,053	61.4
膠原病 感染症内科		12	4,289	11.8	484	5,166	5,650	23.1
第三内科		48	16,381	44.9	1,480	15,176	16,656	68.0
精神科		36	9,244	25.3	472	7,127	7,599	31.0
小児科		27	9,575	26.2	755	14,992	15,747	64.3
第一外科		48	17,757	48.6	758	7,537	8,295	33.9
第二外科		48	15,907	43.6	605	5,847	6,452	26.3
整形外科		48	17,922	49.1	3,001	41,077	44,078	179.9
皮膚科		24	8,599	23.6	1,687	12,874	14,561	59.4
泌尿器科		26	9,063	24.8	891	11,339	12,230	49.9
眼科		29	10,226	28.0	2,067	16,062	18,129	74.0
耳鼻咽喉科		30	9,819	26.9	1,807	11,959	13,766	56.2
産科 婦人科		56	19,289	52.8	940	10,608	11,548	47.1
放射線科		5	1,201	3.3	648	2,647	3,295	13.4
麻酔科		3	1,069	2.9	913	4,511	5,424	22.1
脳神経外科		21	8,522	23.3	419	3,259	3,678	15.0
歯科口腔外科・矯正歯科		14	5,256	14.4	1,548	12,620	14,168	57.8
救命救急センター		20	8,457	23.2	762	293	1,055	4.3
禁煙外来					0	0	0	0.0
計		※ 632	204,687	560.8	22,697	211,941	234,638	957.7

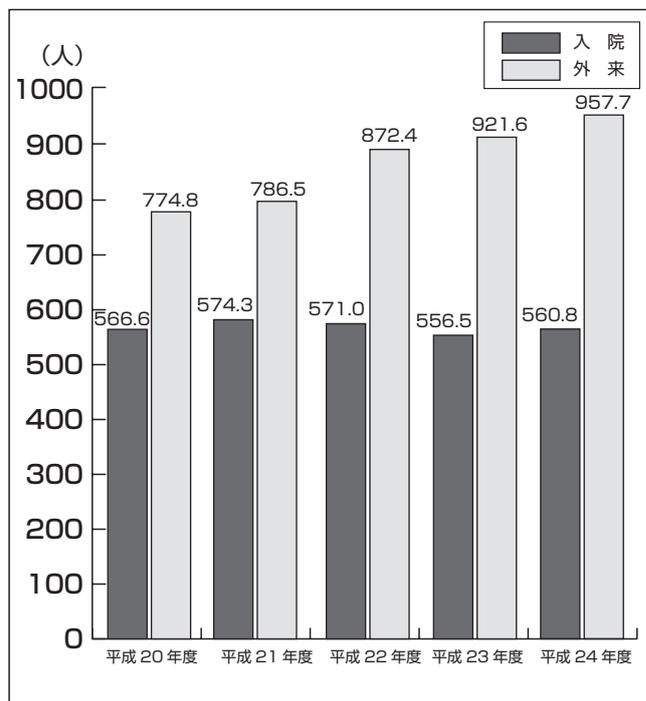
※はその他の病床 52 床を含む

年度別患者数

延患者数



1日平均患者数



学生・生徒・児童及び園児数

1. 学 部

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

学部	学科・課程	定員		現員						計
		入学定員	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
教育文化学部	学校教育課程	150	600	153	159	156	177			645
	人間社会課程	80	320	84	82	80	94			340
	社会システム課程						1			1
	計	230	920	237	241	236	272			986
医学部	医学科	110	645	115	129	122	102	113	90	671
	看護学科	{10} 60	{20} 240	63	59	66	68			256
	計	{10} 170	{20} 885	178	188	188	170	113	90	927
工学部	環境応用化学科	58	116	58	61					119
	社会環境システム工学科	53	106	53	(1) 54					(1) 107
	環境ロボティクス学科	49	98	49	50					99
	機械設計システム工学科	54	108	(2) 58	(1) 56					(3) 114
	電子物理工学科	53	106	(1) 54	54					(1) 108
	電気システム工学科	49	98	51	50					101
	情報システム工学科	54	224	(1) 58	(2) 56	(1) 59	78			(4) 251
	材料物理工学科		98			52	(1) 63			(1) 115
	物質環境化学科		136			(1) 69	(2) 79			(3) 148
	電気電子工学科		176			(2) 95	(7) 125			(9) 220
	土木環境工学科		116			(1) 61	(2) 75			(3) 136
	機械システム工学科		98			(1) 52	(2) 67			(3) 119
	計	{10} 370	{20} 1,480	(4) 381	(4) 381	(6) 388	(14) 487			(28) 1,637
農学部	植物生産環境科学科	50	200	50	50	50	(2) 54			(2) 204
	森林緑地環境科学科	50	200	52	52	51	(1) 52			(1) 207
	応用生物科学科	55	220	56	56	(1) 57	(1) 64			(2) 233
	海洋生物環境学科	30	120	31	31	31	28			121
	畜産草地科学科	50	200	51	49	(1) 53	51			(1) 204
	獣医学科	30	180	31	32	28	32	30	(1) 34	(1) 187
	食料生産科学科						5			5
	生物環境科学科						7			7
	地域農業システム学科						5			5
計	265	1,120	271	270	(2) 270	(4) 298	30	(1) 34	(7) 1,173	
合計	{20} 1,035	{40} 4,405	(4) 1,067	(4) 1,080	(8) 1,082	(18) 1,227	143	(1) 124	(35) 4,723	

() 内は外国人留学生で内数

{ } 内は第3年次編入学定員分で外数

2. 大学院（修士課程）

（平成 25 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	計
教育学研究科	学校教育支援専攻	10	20	(1) 11	(3) 10	(4) 21
	計	10	20	(1) 11	(3) 10	(4) 21
医科学看護学 研究科	医科学専攻	15	30	(3) 13	(1) 14	(4) 27
	看護学専攻	10	20	9	18	27
	計	25	50	(3) 22	(1) 32	(4) 54
医学系研究科	看護学専攻				1	1
	計				1	1
工学研究科	応用物理学専攻	17	34	18	(1) 21	(7) 39
	物質環境化学専攻	27	54	23	27	50
	電気電子工学専攻	36	72	(1) 37	35	(1) 72
	土木環境工学専攻	16	32	(6) 21	(1) 12	(7) 33
	機械システム工学専攻	19	38	(1) 21	21	(1) 42
	情報システム工学専攻	19	38	(3) 17	(4) 16	(7) 33
	計	134	268	(11) 137	(6) 132	(17) 269
	農学研究科	生物生産科学専攻	16	32	(3) 19	(4) 15
地域資源管理科学専攻	12	24	(1) 12	(1) 11	(2) 23	
森林草地環境科学専攻	10	20	(1) 9	(1) 10	(2) 19	
水産科学専攻	10	20	9	9	18	
応用生物科学専攻	20	40	18	(1) 22	(1) 40	
計	68	136	(5) 67	(7) 67	(12) 134	
合計		237	474	(20) 237	(17) 242	(37) 479

（ ）内は外国人留学生で内数

3. 大学院（博士後期課程・博士課程）

（平成 25 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員				
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	計
医学系研究科	医学専攻						24	24
	細胞・器官系専攻						8	8
	生体制御系専攻						12	12
	生体防衛機構系専攻						1	1
	環境生態系専攻						1	1
	計		0	0	0	0	46	46
医学獣医学総合 研究科	医学獣医学専攻	23	92	(5) 32	(4) 26	(6) 28	(3) 15	(18) 101
	計	23	92	(5) 32	(4) 26	(6) 28	(3) 15	(18) 101
農学工学 総合研究科	資源環境科学専攻	7	18	(6) 10	(3) 7	(6) 24		(15) 41
	生物機能応用科学専攻	4	12	5	(1) 5	7		(1) 17
	物質・情報工学専攻	5	18	4	(1) 8	9		(1) 21
	計	16	48	(6) 19	(5) 20	(6) 40		(17) 79
	山口大学大学院 連合獣医学研究科	獣医学専攻		※				2
計			0	0	0	2	2	
合計		39	140	(11) 51	(9) 46	(12) 68	(3) 63	(35) 228

（ ）内は外国人留学生で内数

※平成 22 年度から医学獣医学総合研究科の設置に伴い、山口大学大学院連合獣医学研究科を離脱し、入学者の募集を停止した。

4. 専門職大学院（専門職学位課程）

（平成 25 年 5 月 1 日現在）

研究科	専攻	定員		現員		
		入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	計
教育学研究科	教職実践開発専攻 （教職大学院）	28	56	26	23	49

5. 別 科

別科	専修	定員	現員
畜産別科	畜産専修	4	3

6. 科目等履修生・研究生

学部・研究科	科目等履修生	研究生
学部		
教育文化学部	5	12
医学部		
工学部		4
農学部	2	1
大学院		
教育学研究科		2
医学系研究科		
工学研究科		2
農学研究科		
医学獣医学総合研究科		
農学工学総合研究科	1	
合計	8	21

7. 附属学校園

（平成 25 年 5 月 1 日現在）

附属幼稚園	区分	定員				現員				学級数
		3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計	
	2 年保育	—	32	50	82	—	26	44	70	計 5 学級
3 年保育	20	20	20	60	20	19	20	59		
計	20	52	70	142	20	45	64	129		

附属小学校	学校区分	定員		現員						学級数
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
	普通学級	105	690	104	105	109	114	113	113	658
特別支援学級	4	24	0	1	3	2	1	2	9	計 3 学級 1.2 年、3.4 年、5.6 年
計	109	714	104	106	112	116	114	115	667	

附属中学校	学校区分	定員		現員				学級数		
		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	計			
	普通学級	160	480	160		157		160	477	各学年 4 学級 計 12 学級
特別支援学級	8	24		3		4		5	12	各学年 1 学級 計 3 学級
計	168	504		163		161		165	489	

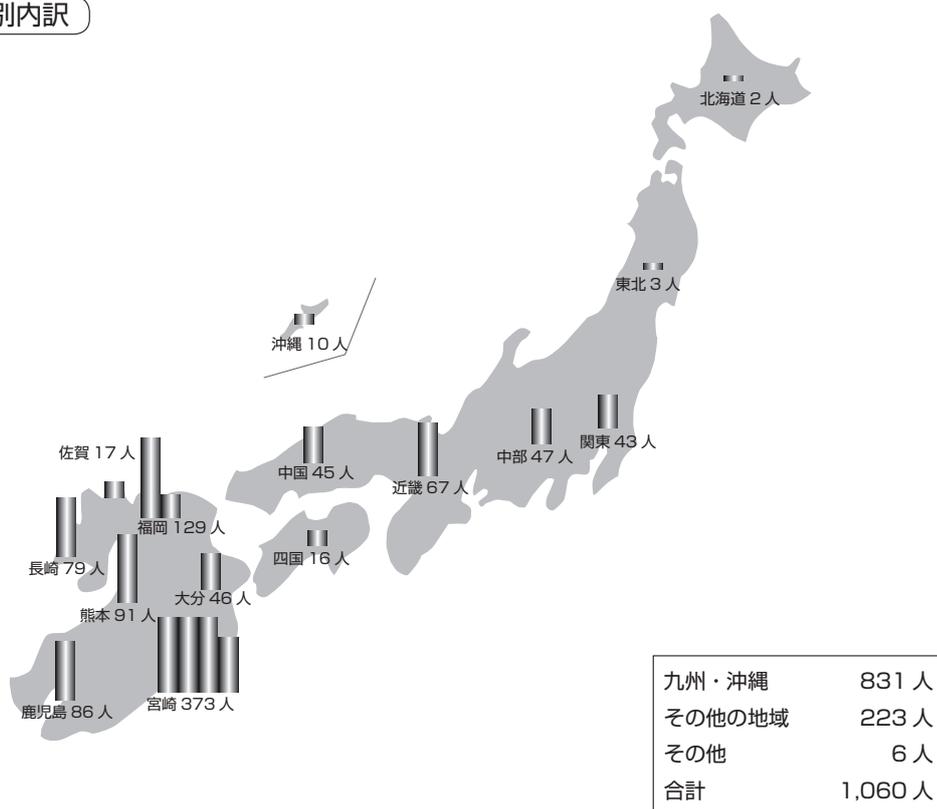
平成 25 年度入学状況

1. 学 部

学部	学科・課程		入学定員		志願者			入学者			
					男	女	計	男	女	計	
教育文化学部	初等教育コース		75		160	245	405	30	45	75	
	学校教育課程	中学校教育コース	国語専攻	6	60	8	10	18	1	4	5
			社会専攻	7		62	10	72	8	1	9
			数学専攻	9		77	26	103	6	2	8
			理科専攻	8		40	14	54	8	1	9
			音楽専攻	5			12	12		4	4
			美術専攻	4		6	3	9	4		4
			保健体育専攻	7		37	9	46	7	1	8
			技術専攻	4		11		11	4		4
			家庭専攻	4		1	21	22		4	4
			英語専攻	6		31	22	53	4	2	6
	特別支援教育コース		15		14	54	68	2	15	17	
	人間社会課程	言語文化コース		15	80	30	(1)	(1)	4	11	15
社会システムコース		65	(2)	77		(2)	39	30	69		
計			230		(2)	(1)	(3)	117	120	237	
医学部	医学科		110		522	312	834	65	45	110	
	看護学科		60		43	271	314	8	53	61	
	計			170		565	583	1,148	73	98	171
工学部	環境応用化学科		58		(2)	(4)	(6)	48	10	58	
	社会環境システム工学科		53		273	48	321	44	9	53	
	環境ロボティクス学科		49		(2)	9	(2)	43	6	49	
	機械設計システム工学科		54		(6)	(1)	(7)	(2)		(2)	
	電子物理工学科		53		187	10	197	51	3	54	
	電気システム工学科		49		(1)		(1)	48	3	51	
	情報システム工学科		54		(2)	37	(2)	(1)	4	(1)	
	計			370		(14)	(7)	(21)	(4)	41	(4)
農学部	植物生産環境科学科		50		(1)	(1)	(2)	38	12	50	
	森林緑地環境科学科		50		141	47	188	37	15	52	
	応用生物科学科		55		148	(1)	(1)	24	32	56	
	海洋生物環境学科		30		124	(2)	(2)	19	12	31	
	畜産草地科学科		50		114	165	279	16	35	51	
	獣医学科		30		(2)	(2)	(4)	14	17	31	
	計			265		(3)	(6)	(9)	148	123	271
合 計			1,035		(19)	(14)	(33)	(4)	382	(4)	
					3,795	2,025	5,820	678	382	1,060	

() 内は外国人留学生で内数

出身高校所在地域別内訳



2. 大学院

研究科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
教育学研究科（修士）	10	3	(1) 9	(1) 12	3	(1) 8	(1) 11
教育学研究科（専門職学位）	28	24	9	33	19	7	26
医科学看護学研究科（修士）	25	(2) 8	(1) 15	(3) 23	(2) 8	(1) 14	(3) 22
工学研究科（修士）	134	(4) 170	(2) 13	(4) 183	(4) 122	(2) 8	(4) 130
農学研究科（修士）	68	(3) 59	(2) 30	(5) 89	(3) 45	(2) 22	(5) 67
医学獣医学総合研究科（博士）	23	(2) 7	(3) 14	(5) 21	(2) 7	(3) 13	(5) 20
農学工学総合研究科（博士後期）	16	(3) 14	(2) 4	(5) 18	(3) 14	(1) 3	(4) 17
計	304	(14) 285	(9) 94	(23) 379	(14) 218	(8) 75	(22) 293

() 内は外国人留学生で内数

3. 別科

別科	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
畜産別科	4	2	1	3	2	1	3

卒業生・修了者数

1. 学 部

学部	学科・課程	平成24年度 卒業生数	全卒業生数	備考	
教育学部	2年課程 第1部		1,050	昭和39年度廃止	
	2年課程 第2部		267		
	小学校教員養成課程		4,782		
	中学校教員養成課程		2,812		
	養護学校教員養成課程		486		
	幼稚園教員養成課程		602		
	特別教科(理科)教員養成課程		612		
	特別教科(音楽)教員養成課程		984		
	人文社会課程		676		
	計		12,271		
教育文化学部	学校教育課程	142	1,250	平成11年度教育学部を改組 平成20年度学校教育課程、地域文化課程、 生活文化課程、社会システム課程を改組	
	人間社会課程	82	154		
	地域文化課程	1	279		
	生活文化課程	2	373		
	社会システム課程	3	528		
	計	230	2,584		
医学部	医学科	99	3,270		
	看護学科	66	603		
	計	165	3,873		
工学部	機械工学科		1,428	平成4年度機械工学科、工業化学科、土木 工学科、電気工学科、電子工学科、応用物 理学科を改組	
	工業化学科		1,297		
	土木工学科		1,577		
	電気工学科		1,191		
	電子工学科		231		
	応用物理学科		921		
	物質工学科		708		
	情報工学科		316		
	材料物理学科	58	487		
	物質環境化学科	69	724		
	電気電子工学科	91	1,563		
	土木環境工学科	60	982		
	機械システム工学科	56	871		
	情報システム工学科	64	594		
計	398	12,890			
農学部	農学部 第1部		50	昭和28年度廃止	
	農学部 第2部		52		
	農学科		1,285		
	林学科		1,081		
	畜産学科		1,068		
	獣医学科	30	1,661		
	農業化学科		1,304		
	水産学科		292		
	水産増殖学科		626		昭和44年度水産学科を改組
	総合農学科		302		昭和38年度総合農学科を改組
	農業工学科		922		
	草地学科		331		
	農林生産学科		1,265		平成元年度農学科、林学科、畜産学科、農 業化学科、水産増殖学科、農業工学科、草 地学科を改組
	生物資源利用学科		625		
	動物生産学科		785		
	食料生産科学科	60	606		
	生物環境科学科	64	652		平成12年度農林生産学科、生物資源利用 学科、動物生産学科を改組
	地域農業システム学科	53	532		
	応用生物科学科	53	542		
	計	260	13,981		
合計		1,053	45,599		

2. 大学院

研究科	平成 24 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（修士）	11	523	
医科学看護学研究科（修士）	20	30	
医学系研究科（修士）	2	114	平成 22 年度改称
医学系研究科（博士）	10	404	
工学研究科（修士）	136	652	
工学研究科（博士前期）		1,999	平成 19 年度改称
工学研究科（博士後期）		95	平成 18 年度をもって廃止
農学研究科（修士）	56	1,894	
農学工学総合研究科（博士後期）	8	49	
合計	243	5,760	

専門職大学院

研究科	平成 24 年度修了者数	全修了者数	備考
教育学研究科（専門職学位）	25	104	

3. 専攻科

研究科	全修了者数	備考
教育専攻科	119	平成 6 年度をもって廃止
工学専攻科	30	昭和 51 年度をもって廃止
農学専攻科	50	昭和 48 年度をもって廃止
合計	199	

4. 別科

研究科	平成 24 年度修了者数	全修了者数	備考
畜産別科	4	306	

博士の学位授与者数

（平成 25 年 3 月 31 日現在）

区分	課程博士		論文博士	
	平成 24 年度	累計	平成 24 年度	累計
医学系研究科	10	410	6	214
工学研究科		113		5
農学工学総合研究科	9	58	0	0

平成 24 年度就職状況

1. 学 部

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

区分	卒業生数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育文化学部	230(133)	17(5)	175(110)	88(58)	87(52)	38(18)
医学部	165(104)	1(0)	61(53)	19(15)	42(38)	103(51)
工学部	398(43)	136(10)	223(33)	67(13)	156(20)	39(0)
農学部	260(119)	68(23)	158(82)	46(22)	112(60)	34(14)
合計	1053(399)	222(38)	617(278)	220(108)	397(170)	214(83)

() 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：臨床研修医、研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

■産業別就職状況

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

区分	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	合計
農業、林業	1(0)		1(1)	17(9)	19(10)
漁業				2(1)	2(1)
鉱業、採石業、砂利採取業					
建設業			28(2)	4(1)	32(3)
製造業	3(1)		79(10)	30(10)	112(21)
電気・ガス・熱供給・水道業			11(1)	2(1)	13(2)
情報通信業	4(3)		28(5)	8(6)	40(14)
運輸業、郵便業	2(1)		3(1)	2(1)	7(3)
卸売業、小売業	15(9)		14(1)	16(10)	45(20)
金融業、保険業	7(3)		7(2)	12(7)	26(12)
不動産業、物品賃貸業	6(4)		2(0)	2(2)	10(6)
学術研究、専門・技術サービス業	1(0)		4(0)	22(13)	27(13)
宿泊業、飲食サービス業	4(2)			5(5)	9(7)
生活関連サービス業、娯楽業	9(7)		1(0)	8(4)	18(11)
教育、学習支援業	85(60)		5(0)	1(1)	91(61)
医療、福祉	12(9)	61(53)	1(1)	1(1)	75(64)
複合サービス業	2(1)		2(0)		4(1)
サービス業	2(2)		8(4)		10(6)
公務	22(8)		29(5)	26(10)	77(23)
その他					
合計	175(110)	61(53)	223(33)	158(82)	617(278)

() 内は女子で内数

2. 大 学 院

◇ (修士・専門職学位) 課程

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
教育学研究科	36(19)		33(17)	27(12)	6(5)	3(2)
医学系研究科	2(2)		2(2)	2(2)		
医科学看護学研究科	20(14)	1(1)	18(13)	15(13)	3(0)	1(0)
工学研究科	136(14)	3(1)	122(13)	16(3)	106(10)	11(0)
農学研究科	56(21)	7(1)	44(18)	7(3)	37(15)	5(2)
合計	250(70)	11(3)	219(63)	67(33)	152(30)	20(4)

◇ (博士後期・一貫) 課程

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

区分	修了者数	就職者数	就職先内訳		その他
			県内	県外	
医学系研究科	10(4)	9(3)	9(3)		1(1)
農学工学総合研究科	8(2)	7(1)	2(0)	5(1)	1(1)
合計	18(6)	16(4)	11(3)	5(1)	2(2)

() 内は女子で内数。外国人留学生を含む。

その他：研究生、就職活動中、公務員（教員）試験等準備、海外留学、未就職者等を計上。

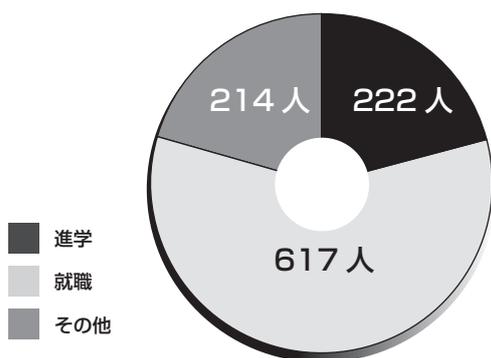
■産業別就職状況

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

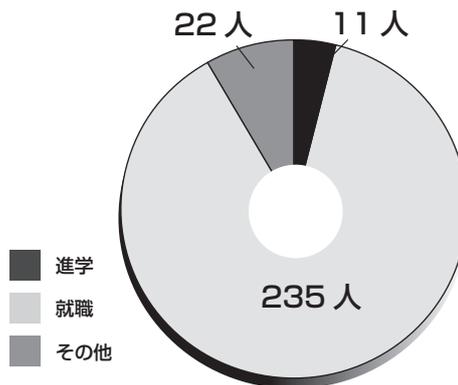
区分	教育学研究科	医科学看護学研究科	医学系研究科	工学研究科	農学研究科	農学工学総合研究科	合計
農業、林業							
漁業							
鉱業、採石業、砂利採取業							
建設業				11(0)	1(1)		12(1)
製造業				74(8)	22(7)	1(0)	97(15)
電気・ガス・熱供給・水道業				7(0)		1(0)	8(0)
情報通信業				14(0)	1(1)	1(0)	16(1)
運輸業、郵便業							
卸売業、小売業				1(0)	3(1)		4(1)
金融業、保険業		1(0)		2(0)	2(1)		5(1)
不動産業、物品賃貸業							
学術研究、専門・技術サービス業		2(2)		3(1)	2(1)		7(4)
宿泊業、飲食サービス業							
生活関連サービス業、娯楽業					3(1)		3(1)
教育、学習支援業	30(15)	4(4)	2(0)	2(2)	2(1)	4(1)	44(23)
医療、福祉	1(1)	11(7)	9(5)				21(13)
複合サービス業							
サービス業				2(2)			2(2)
公務	2(1)			6(0)	8(4)		16(5)
その他							
合計	33(17)	18(13)	11(5)	122(13)	44(18)	7(1)	235(67)

() 内は女子で内数

■ 進路状況 (学部)



■ 進路状況 (大学院)



奨学生状況

(平成 25 年 2 月 1 日現在)

区分	在学生数	日本学生支援機構			その他の奨学団体	合計 (単位: 人)	在学生に 対する割合	
		一種	二種 (きぼう 21 プラン)	(うち併用者)				
学部	教育文化学部	986	229	336	(37)	13	541	54.9
	医学部	922	178	304	(77)	70	475	51.5
	工学部	1,935	358	644	(76)	19	945	48.8
	農学部	1,161	238	431	(53)	22	638	55.0
	計	5,004	1,003	1,715	(243)	124	2,599	51.9
大学院	教育学研究科	66	20	1	0	1	22	33.3
	医学系研究科(修士)	4	0	0	0	0	0	0.0
	医科学看護学研究科	50	9	0	0	0	9	18.0
	工学研究科	260	149	34	(8)	4	179	68.8
	農学研究科	120	59	18	(10)	1	68	56.7
	医学系研究科(博士)	53	0	0	0	0	0	0.0
	医学獣医学総合研究科	60	6	2	(1)	0	7	11.7
	農学工学総合研究科	56	19	5	(5)	0	19	33.9
計	669	262	60	(24)	6	304	45.4	
合計	5,673	1,265	1,775	(267)	130	2,903	51.2	

※その他の奨学団体の人数は、大学に推薦依頼があり、採用された奨学生のみで、学生が直接奨学団体に応募して採用された者は含まない。また、留学生は含まない。

国際交流

1. 外国人留学生数

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

国・地域名	学部			大学院			研究生			特別聴講(研究)学生			合計
	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	国費	政府派遣	私費	
インド				3									3
ネパール				1									1
バングラディシュ				3		3							6
ミャンマー				1									1
タイ						4							4
マレーシア		4	2			2							8
インドネシア			1	1		12							14
フィリピン				1									1
韓国			3	1		1						7	12
ベトナム			1			4							5
中国			23			26				1		1	51
中国(台湾)			1			1						3	5
ラオス						1							1
アフガニスタン						4							4
モンゴル						1							1
ジンバブエ				1									1
モーリタニア				1									1
ブラジル										1			1
スペイン							1						1
計		4	31	13		59	1		2			11	121

2. 海外派遣留学生

区分	派遣国・地域名	大学名	平成 24 年度派遣留学生
交流協定校への留学	中国	上海交通大学	5 ※医学部4名
	中国	南京農業大学	1
	タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部	15
	中国(台湾)	国立政治大学	1
	韓国	嶺南大学校	1
	アメリカ	エヴァーグリーン州立大学	2
	アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校	2
	イタリア	カリアリ大学	2

3. 外国人研究者受入状況

(平成 24 年度)

国・地域名	受入部局	教育文化学部	医学部	工学部	農学部	教育・学生 支援センター	フロンティア 科学実験 総合センター	国際連携 センター	産業動物防疫 リサーチ センター	合計
インド			3		2			2		7
インドネシア				25					1	26
韓国			3	1	1	1	2	7		15
カンボジア								1	2	3
タイ		1	14		3		2		1	21
中国(台湾)								2		2
中国			5	4	4			6		19
ネパール			1							1
バングラデシュ			2					1		3
ベトナム					3		1	1	3	8
ミャンマー								3	2	5
モンゴル			1	2						3
アフガニスタン			2							2
パレスチナ			2							2
エジプト					5					5
米国			4						4	8
カナダ			3							3
ウルグアイ									1	1
英国		1	3						1	5
イタリア								3		3
スペイン			1							1
デンマーク			1							1
ドイツ		1								1
ノルウェー							1			1
フランス			1				1			2
ベルギー							1			1
合計		3	46	32	18	1	8	26	15	149

4. 外国の大学等との交流一覧

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

■大学間交流協定

国・地域名	大学等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日
米国	エヴァーグリーン州立大学		昭和61. 7. 15
韓国	嶺南大学校	昭和62. 2. 8	平成17.11.28
スロベニア	リュブリャナ大学	昭和62. 9.30	平成20. 4. 8
韓国	順天大学校	平成 元.11.21	平成 7. 8.22
中国	南京農業大学	平成 2.11.28	平成17.11. 2
タイ	カセサート大学	平成 4. 9. 4	平成20.10.14
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学	平成 7.12.11	
中国	上海交通大学	平成11.12.21	平成18. 9. 1
インドネシア	ブラウイジャヤ大学	平成16. 4. 5	平成17. 9.26
ベトナム	ハノイ農業大学	平成17. 5.30	平成17. 5.30
中国	青海大学	平成17. 8.29	平成17. 8.29
インド	インド工科大学カンブール校	平成21. 7.13	
インド	チャトラパティ・シャフジ・マハラジ医科大学	平成21. 7.29	
韓国	全北大学校	平成21.12.15	平成21.12.15
ブラジル	サンパウロ大学農学部ルイス・デ・ケイロス校	平成22. 4.19	平成22. 4.19
イタリア	カリアリ大学	平成22. 9.27	平成23. 5.31
中国	西北農林科技大学	平成22.11.10	平成22.11.10
モンゴル	モンゴル国立大学	平成23. 6.28	平成23.6.28
ベトナム	ベトナム教育訓練省国際教育開発局	平成23. 9.27	
米国	カンザス州立大学	平成24. 8. 2	
韓国	慶北大学校	平成25. 1. 7	平成25. 1. 7
中国	長沙理工大学	平成25. 1.10	平成25. 1.10
ミャンマー	ミャンマー保健省	平成25. 1.22	
中国(台湾)	開南大学	平成25. 3.15	平成25. 3.15
米国	インディアナ大学・パデュー大学フォートウェイン校		平成25. 3.22

■部局間交流協定

国・地域名	大学・部局等	学術交流協定締結年月日	学生交流覚書締結年月日	締結部局
中国(台湾)	東呉大学外国語文学院		平成16. 9. 6	教育文化学部
中国(台湾)	国立政治大学	平成21. 3.23	平成21. 3.23	//
韓国	釜山外国語大学校日本語学部		平成23.12.16	//
中国	温州医学院	平成12. 3. 8		医学部
中国(台湾)	国立成功大学医学院	平成13. 3.16		//
中国	延辺大学医学院	平成15. 2.12		//
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学医学部		平成17. 3. 1	//
米国	カリフォルニア大学アーバイン校医学部	平成17. 7. 1		//
タイ	プリンス・オブ・ソンクラ大学看護学部		平成21. 2.22	//
中国	上海交通大学医学院		平成22.11. 8	//
ポーランド	ヤン・コハノフスキ大学	平成 5. 2. 1		工学部
インドネシア	ガジャマダ大学工学部	平成23.10.14	平成23.10.14	//
フィリピン	セントラル・ルソン国立大学	昭和63. 1.12	平成19.10. 1	農学部
タイ	チュロンコン大学獣医学部	昭和63. 1.26	平成 8. 4.12	//
英国	スターリング大学養殖研究所	平成 2. 8.23		//
インドネシア	ボゴール農科大学	平成 4. 8.31	平成 9. 9. 9	//
中国	中国農業大学	平成 6.10.22	平成19. 6.25	//
インドネシア	ハサヌディン大学	平成 7. 2. 6	平成19. 7. 2	//
フィリピン	フィリピン大学ロス・バニョス校	平成 8. 3.25	平成18. 3. 3	//
オーストラリア	メルボルン大学獣医学部	平成10.11. 2		//
タイ	キング・モンクット工科大学生物資源技術学部	平成11. 7.21	平成23. 1.19	//
アルゼンチン	プエノスアイレス大学農学部	平成13. 1.11	平成18. 3. 3	//
モンゴル	モンゴル国立農業大学	平成15.10.17	平成20. 9.12	//
韓国	釜慶大学校水産科学部	平成24. 6. 7	平成24. 6. 7	//
韓国	全北大学校獣医学部		平成25. 3. 7	//
ネパール	トリバン大学中央図書館	平成20. 3. 3		附属図書館

連携協定機関

	協定先	協定月日	目的
1	株式会社 宮崎銀行	平成17年2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
2	株式会社 宮崎太陽銀行	平成17年2月24日	学術・文化の振興及び活力ある経済社会の形成並びに地域経済の活性化を図ることを目的とする。
3	社団法人 宮崎県工業会	平成18年6月8日	相互の資質の向上及び大学と県内企業との連携強化を図り、地域社会の発展に貢献することを目的とする。
4	宮崎県経済農業協同組合連合会 (JA宮崎経済連)	平成19年5月28日	宮崎県における農業の発展と相互の資質の向上に寄与することを目的とする。
5	株式会社日本政策金融公庫 宮崎支店 延岡支店	平成21年7月1日	研究成果等を地域社会へ還元すること及び緊密な情報交換を行うことにより地域の産学連携を推進し、もって中小企業及び地域社会の発展に貢献することを目的とする。
6	学校法人高梁学園 九州保健福祉大学	平成21年9月9日	相互に緊密かつ組織的な連携・協力体制を築き、両大学の教育・研究の推進を図ることにより、それらを通じて地域や国際社会への貢献に寄与することを目的とする。
7	梅田学園グループ	平成22年4月13日	交通安全運動推進並びに宮崎大学の学生サークル活動支援のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
8	社団法人宮崎県商工会議所連合会	平成22年6月8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
9	宮崎県商工会連合会	平成22年6月8日	学術・文化の振興、および大学と県内企業との連携強化、活力ある地域社会の形成と地域経済の活性化を図ることを目的とする。
10	学校法人 宮崎総合学院	平成22年10月7日	各種資格取得並びに就職試験対策への協力のため、それぞれが保有する機能やサービスの提供を目的とする。
11	フェニックスリゾート株式会社	平成23年2月15日	それぞれの資質の向上と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
12	宮崎県ホテル旅館生活衛生同業組合	平成23年2月18日	スポーツメディカル構想の研究に関して連携協力し、宮崎県・宮崎市と連携を図りつつ、「スポーツランドみやざき」構想の新しい付加価値創造と地域社会の発展に寄与することを目的とする。
13	宮崎県	平成19年6月26日	宮崎の特性を生かし、豊かで活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的とする。
14	宮崎市	平成23年4月5日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
15	日南市	平成24年4月12日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
16	日向市	平成24年7月6日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
17	串間市	平成25年5月10日	それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域の発展に寄与することを目的とする。
18	商工会議所連合会 JA中央会 JA経済連 漁業協同組合連合会 森林組合連合会 商工会連合会 宮崎県	平成23年3月31日	農商連携が推進される中、宮崎県の農業、漁業、林業、工業、商業等の各産業間の一層の連携強化について情報交換や研究を行う場を設けるとともに、それぞれの経営資源を有効に活用して行う事業等の実施について合意した場合は、積極・果敢にその実行に取り組むこととし、もって活力ある地域社会の形成と経済の活性化を図るものとする。

平成24年度公開講座実施状況

●本学による公開講座

講座等の名称	学部	実施期間	開講回数	総時間数	受講対象	受講者数	実施場所
親子でおいもを育てて食べてみよう	農学部	4/22~12/23	7	14	小学生以下の親子	15家族 55名	木花フィールド
春の森林・秋の森林植物観察会	農学部	4/28・10/20	2	6	一般	28	田野フィールド
源氏物語 ～着火巻を読み、現代の源氏物語享受の様相を知る～	教育文化学部	5/19~2/16	15	22.5	一般	33	国際連携センター
地盤環境保全セミナー 「宮崎の地盤特性と地盤環境問題の解決に関する講座」	国際連携センター	6/9~9/15	8	12	一般	43	国際連携センター
医学部公開講座 「すこやかに過ごすための食事と睡眠」	医学部	7/23~7/27	5	10	一般	74	JA/AZMホール
住吉フィールド(牧場)で酪農体験	農学部	7/25・8/22	2	6	小・中学生	17	住吉フィールド
医学部公開講座「アトピー性皮膚炎について」	医学部	8/5	1	3	一般	36	ホテルJALシティ宮崎
第3種電気主任技術者試験受験対策講習会	工学部	8/9	1	6	高校生 大学生	11	工学部講義棟
初心者のための太陽電池入門	農学部	8/10	1	4	小学生以上の一般	23	木花キャンパス 総合研究棟
農場を利用した楽しい野菜栽培	農学部	8/27~2/25	8	12	一般	26	木花フィールド
魚類の生態学 「宮崎県の川と海を見ながら魚の生活を考えよう」	農学部	9/1~9/29	5	7.5	一般	3	延岡フィールド
家庭菜園講座 「プランターで楽しむおうちミニ農園」	農学部	9/1~12/1	5	10	一般	5	木花フィールド
医学部市民公開講座「HTLV-1感染症からATL」	医学部	10/13~11/24	4	10	一般	150	KITENビル8F 大会議室
医学部附属病院看護部公開講座 「看護師が行う呼吸理学療法・褥瘡予防の スキンケア」	医学部	10/27	1	6	看護師等医療職	68	医学部 総合教育研究棟
医学部看護学科公開講座 「ナースのためのブラッシュアップ講座」	医学部	12/8~2/2	5	9	看護職者	57	医学部 総合教育研究棟
市民公開講座 「つながるいのち 子どもの未来を考えよう」	医学部	12/16	1	3	一般	150	カルチャープラザのべおか多目的ホール
「耳の日」市民講座 ～耳を大切に～	医学部	3/2	1	3	一般	91	KITENビル8F 大会議室

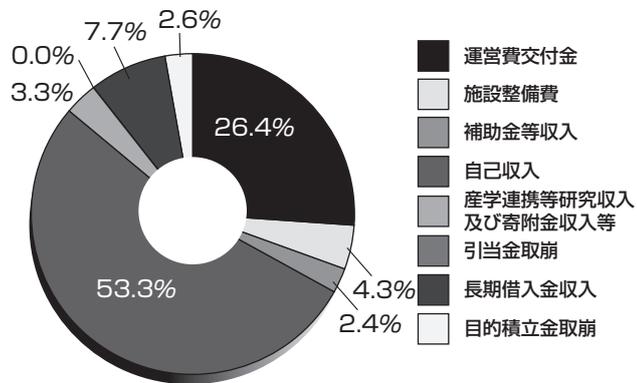
平成 24 年度経理状況

●決算額

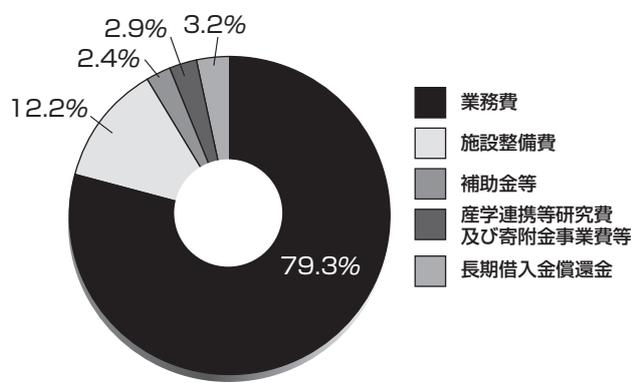
単位：円

収 入		支 出			
運営費交付金	9,818,764,000	業務費	教育研究経費	11,338,553,760	
国立大学財務・経営センター施設費交付金	57,000,000		診療経費	17,947,423,549	
施設整備費	施設整備費補助金	1,089,483,900	施設整備費		
	厚生労働省交付金	462,348,000			
補助金等収入	884,623,400	補助金等	884,623,400		
自己収入	授業料、入学金及び検定料収入	3,191,963,166	産学連携等研究費 及び寄附金事業費 等	寄附金事業経費	457,540,850
	附属病院収入	16,156,322,744		受託研究等経費	452,048,400
	財産処分収入	0		受託事業等経費	172,104,322
	雑収入	469,123,692		著作権及び特許料等収入	7,479,594
産学連携等研究収入 及び寄附金収入等	寄附金収入	605,880,440	長期借入金償還金		1,176,089,414
	受託研究等収入	452,048,400			
	受託事業等収入	185,821,181			
	著作権及び特許料等収入	7,479,594			
引当金取崩	11,447,400				
長期借入金収入	2,877,990,000				
前中期目標期間繰越積立金取崩	0				
目的積立金取崩	949,133,255				
合 計	37,219,429,172	合 計	36,922,685,189		

■ 収入



■ 支出

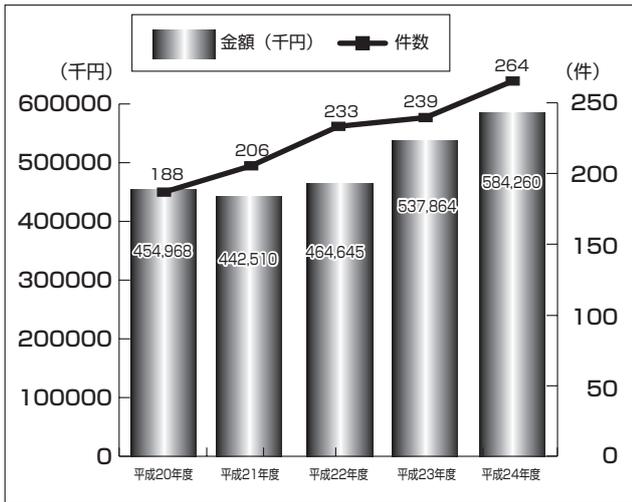


●科学研究費補助金採択状況

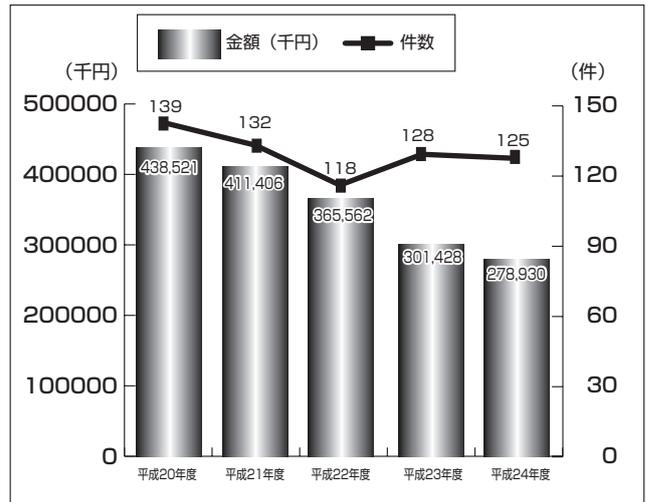
(平成 24 年度)

研究種目	採択件数	金額 (千円)
特定領域研究	1	3,300
新学術領域研究	8	70,070
基盤研究 (A)	1	10,010
基盤研究 (B)	24	124,800
基盤研究 (C)	123	193,830
挑戦的萌芽研究	39	65,130
若手研究 (A)	4	21,580
若手研究 (B)	52	80,990
研究活動スタート支援	4	5,850
研究成果公開促進費	1	3,200
奨励研究	1	600
特別研究員奨励費	6	4,900
計	264	584,260

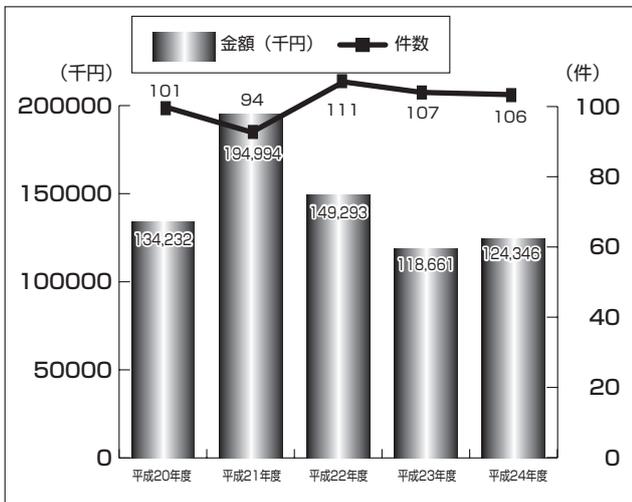
●科学研究費補助金受入状況



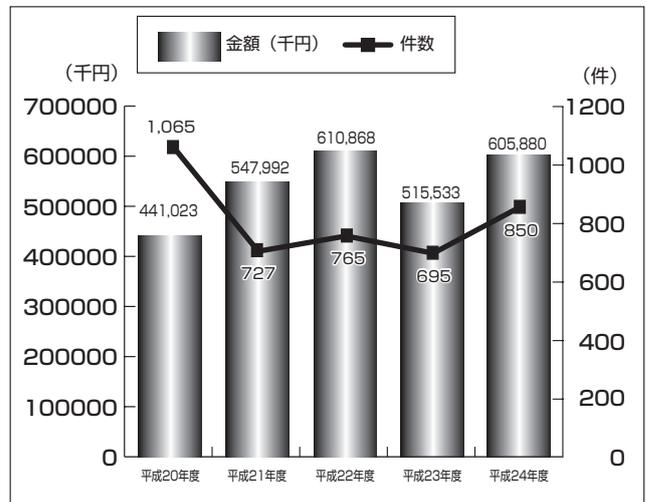
●受託研究受入状況



●共同研究実施状況



●寄附金受入状況



●その他の競争的資金等

(平成24年度)

経費	件数	金額 (千円)
科学技術人材育成費補助金 「テニュアトラック普及・定着事業」	2	235,081
研究開発施設共用等促進費補助金 (ナショナルバイオリソースプロジェクト (中核的拠点整備プログラム))	1	29,529
先端研究助成基金助成金 最先端・次世代研究開発支援プログラム	1	39,650
若手研究者戦略的派遣事業費補助金 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム	2	24,628
厚生労働省科学研究費補助金	4	64,018
国立私立大学を通じた大学教育改革の支援 (GP)	3	27,548

※代表者受入分のみ掲載し、金額は、本学執行額を記載 (間接経費を含む)

学生関係施設

●大学会館

建物名称	階別	室名	用途等
大学会館	地下1	売店	文房具・書籍・日用品等購買
	1	食堂・就職情報資料室・ホール・インフォメーションコーナー	食堂（830席）・資料室・ホール
		ベーカリーカフェ	喫茶・軽食（72席）
	2	学生支援部長室	
		教育支援課	
		学生生活支援課	
	3	キャリア支援課	
		会議室	
		学生なんでも相談室	
		キャリアアドバイザー室	
		教育・学生支援センター	
		センター教員室（3室）	
		資料室	
倉庫			

●学生寄宿舍及び国際交流宿舎

名称	区分	構造	入居定員（名）
男子寄宿舍		鉄筋5階建	100
女子寄宿舍		鉄筋5階建	100
国際交流宿舎		鉄骨鉄筋8階建	167
国際交流宿舎Ⅱ		鉄筋4階建	8
農学部住吉寄宿舍		鉄筋2階建	5
合計			380

●体育施設・課外活動施設

◇木花キャンパス

施設名	種目
体育館（武道場）	体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール・卓球 柔道・剣道・空手道・合気道・少林寺拳法等
陸上競技場（400m）	陸上競技
テニスコート（ハード・クレイ・オムニ）	テニス・ソストテニス
運動場	硬式野球・ソフトボール・ラグビー・サッカー・アメリカンフットボール
プール（50m）	水泳
馬場（厩舎）	馬術
弓道場	弓道
課外活動共用施設	体育系・文化系サークル共用室 文化系（音系）サークル共用室
清花グラウンド	野球・サッカー・ラグビー

◇清武キャンパス

施設名	種目
テニスコート（ハード・クレイ）	テニス・ソストテニス
体育館	バレーボール・卓球・バスケットボール・バドミントン等
プール（50m）	水泳
武道場	柔道・剣道・空手
弓道場	弓道
（福利棟内） 音楽鑑賞室 和室	文化系クラブ及び学生の集会等

土地・建物

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

区 分	土地 (㎡)	建 物 (㎡)		備 考	
		建面積	延面積		
【木花地区】	839,592	41,579	114,408	※安全衛生保健センターを含む	
事務局	}	1,032	3,299	※附属教育実践総合センターを含む	
中央機械棟		430	430		
門衛所		64	64		
大学会館		1,483	3,362		
体育館・器具庫		3,190	3,617		
教育文化学部		6,649	22,655		
工学部		7,041	22,328		
農学部		10,199	31,520		
農学部		(5,802)	(25,147)		
農学部附属フィールド科学教育研究センター木花フィールド(農場)		(2,258)	(2,615)		
附属動物病院		(1,181)	(1,867)		
産業動物教育研究センター		(541)	(1,125)		
附属農業博物館		(417)	(766)		
附属図書館		778,523	1,829		4,977
産学・地域連携センター (産学連携施設)			1,178		2,013
産学・地域連携センター (機器分析支援施設)			385		1,114
国際連携センター			467		819
フロンティア科学実験総合センター 遺伝資源分野			382		1,510
フロンティア科学実験総合センター R I 分野 R I 木花分室			311		367
情報基盤センター		662	1,254		
総合研究棟		2,455	3,972	※技術家庭棟を含む	
寄宿舎		931	3,691		
国際交流宿舎		835	4,687		
課外活動施設		1,580	2,306		
実験排水処理施設		226	173		
農学部水田	61,069	250	250		
【清武地区】	224,316	38,095	121,450		
医学部	}	11,644	34,762		
医学部事務局・フロンティア科学実験総合センター等		23,698	76,480		
医学部附属病院		854	1,715		
附属図書館医学分館		1,899	8,493		
総合教育研究棟					
【花殿・船塚地区】	61,777	8,719	15,626		
教育文化学部附属幼稚園	}	1,058	913		
木犀会館		132	132		
教育文化学部附属小学校	}	3,613	7,162		
教育文化学部附属中学校		3,916	7,419		
【その他】	6,696,241	7,018	8,182		
農学部附属フィールド科学教育研究センター	}	502,040	6,080		
住吉フィールド (牧場)		6,188,097	1,033		
田野フィールド (演習林)		6,104	1,069		
延岡フィールド (水産実験所)					
職員宿舎	29,595	3,946	16,392	(木原職員宿舎敷地内)	
木原新職員宿舎	10,706	1,464	7,330		
木原職員宿舎	10,494	1,261	4,178		
西新町職員宿舎	8,395	1,221	4,884		
保育施設 (くすの木保育園)	973	252	225		
計	7,852,494	99,609	276,283		

施設所在地

●木花キャンパス

0985-58-7111 (番号案内)

名称	所在地	電話番号
事務局		0985(58)2854
教育文化学部		0985(58)2889
附属教育実践総合センター		0985(58)5287
工学部		0985(58)2871
農学部		0985(58)2875
附属フィールド科学教育研究センター		
木花フィールド(農場)		0985(58)7154
附属動物病院		0985(58)7286
附属農業博物館		0985(58)2898
附属図書館本館		0985(58)7147
産学・地域連携センター	〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地	0985(58)4017
機器分析支援部門		0985(58)2868
教育・学生支援センター		0985(58)7427
フロンティア科学実験総合センター		
遺伝資源分野		0985(58)7580
RI分野 RI木花分室		0985(58)2877
国際連携センター		0985(58)7104
産業動物防疫リサーチセンター		0985(58)7674
安全衛生保健センター		0985(58)3423
情報基盤センター		0985(58)2867
清花Athenaサポート室(木花)		0985(58)7508
男子寄宿舎		0985(58)5005
女子寄宿舎		0985(58)4701
国際交流宿舎		0985(58)5000

●清武キャンパス

0985-85-1510 (代表)

名称	所在地	電話番号
医学部		0985(85)1510
附属病院		0985(85)1510
附属図書館医学分館		0985(85)9198
フロンティア科学実験総合センター		
生理活性物質機能解析分野		0985(85)9427
生理活性物質探索病態解析分野	〒889-1692 宮崎市清武町木原5200番地	0985(85)9718
微生物ゲノム科学分野		0985(85)0871
生物資源分野		0985(85)2971
分子形態・機能解析分野		0985(85)1784
RI分野 RI清武分室		0985(85)1514
安全衛生保健センター分室		0985(85)2392
清花Athenaサポート室(清武)		0985(85)1252

●教育文化学部

名称	所在地	電話番号
附属幼稚園	〒880-0031 宮崎市船塚1丁目1番地	0985(24)6707
附属小学校	〒880-0026 宮崎市花殿町7番49号	0985(24)6706
附属中学校	〒880-0026 宮崎市花殿町7番67号	0985(25)1122

●農学部

名称	所在地	電話番号
附属フィールド科学教育研究センター		
住吉フィールド(牧場)	〒880-0121 宮崎市大字島之内10100-1	0985(39)1034
田野フィールド(演習林)(田野地区)	〒889-1702 宮崎市田野町乙11300	0985(86)0036
(大納地区)	〒888-0221 串間市大字大納字平原1885	連絡先 0987(76)2107 松下広幸方
(崎田地区)	〒888-0009 串間市大字崎田字名切4270	
延岡フィールド(水産実験所)	〒889-0517 延岡市赤水町376-6	0982(37)0327

●その他

名称	所在地	電話番号
サテライト・オフィス	〒880-0001 宮崎市橋通西3-3-24 MCCビル1階	0985(55)0553
医学部附属病院歯科口腔外科橋通りクリニック	〒880-8586 宮崎市橋通西3-10-32 ポンペルタ橋東館8階	0985(65)6480
くすの木保育園	〒889-1601 宮崎市清武町木原5600番地	0985(84)2211

問合せ先一覧

問合せ内容	問合せ先	E-mail	電話番号
宮崎大学の総合案内	総務課 総務係	soumuka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
広報について	秘書広報課	kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7114
情報公開について	総務課 総務係	soumuka@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2854
授業料納入について	財務課 出納係	suitou@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7122
購入物品について(政府調達)	経理調達課 経理調達係	seicho@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7574
購入物品について	経理調達課 経理調達係	soukatu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2858
入試について	入試課 入試係	nyushi@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7138
就職関係について	キャリア支援課 キャリア支援係	syusyoku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7141
学生生活支援(奨学金、授業料免除、アルバイト)について	学生生活支援課 学生生活支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7976
証明書発行(在学生、卒業生)について	教育支援課 教務係	gakumukyomu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7856
職員の採用について	人事課 人事係	jinjika@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7109
学生寄宿舎について	学生生活支援課 学生生活支援係	kousei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7142
留学生の受入について	国際連携課	ryugaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7134
産学連携について	産学・地域連携課	sangaku@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7951
外部資金申請関係について	研究推進課 研究推進係	k-jyosei@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7113
外部資金契約経理について	産学・地域連携課	gaibusikin@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7246
公開講座・地域連携について	産学・地域連携課	m-chiiki@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7188
教員免許状更新講習について	教育支援課 教員免許状更新講習事務係	kyomen@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-7975
教育文化学部・大学院教育学研究科の総合案内	教育文化学部 総務係	edusoumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2889
医学部・大学院医学看護学研究科の総合案内	医学部学生支援課教務係		0985-85-9194
工学部・大学院工学研究科の総合案内	工学部 総務係	kousoumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2871
農学部・大学院農学研究科の総合案内	農学部 総務係	nou-soumu@of.miyazaki-u.ac.jp	0985-58-2875
大学院農学工学総合研究科の総合案内	工学部 教務・学生支援係 農学工学総合研究科担当		0985-58-7870
大学院医学獣医学総合研究科の総合案内	医学部学生支援課教務係		0985-85-9194

宮崎大学創立330記念事業～ともに新たな未来へ～

宮崎大学は、より一層の大学改革を展開し、地域に根ざした大学づくりをあらためて進める契機とするため、4学部の歴史的節目を迎える平成26年に向けて、教育文化学部130周年、農学部90周年、工学部70周年及び医学部40周年をトータルした330(サンサンマル)を冠する「宮崎大学創立330記念事業」を実施することといたしました。

宮崎大学のさらなる発展のため、皆様のご理解とご支援をお願いします。

「宮崎大学創立330記念事業」<http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/330anniv/>



ともに新たな未来へ

ロゴマークについて

4つの学部が育んできた「知」と「文化」を結集し、「新たな未来」という高みに向かって発達していくイメージを4色の帯で表現しました。

平成25年度(2013年度) 国立大学法人 宮崎大学概要

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1丁目1番地
URL <http://miyazaki-u.ac.jp/>

[編集発行]
国立大学法人宮崎大学広報戦略室
TEL(0985)58-7114 FAX(0985)58-2818

平成25年7月発行



宮崎大学オリジナルキャラクター
「みやだいまうくん」